

勉誠出版

歴史科学協議会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード:113d38cd31

(期限:~2022年7月31日)

謹啓

薫風の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード:113d38cd31 (期限:~2022年7月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・**3,000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス**
(※ 3,000円未満の場合は、300円を頂戴いたします。海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
歴史科学協議会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は
右のQRコードから
ダウンロードいただけます。



勉誠出版 新刊・近刊書籍リスト (2021・2022年刊行)

No.	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価(税込)	割引価格(税込)	分野	注文数
1	史学科の比較史—歴史学の制度化と近代日本	小澤実・佐藤雄基 編	2022/05	978-4-585-32017-3	¥7,700	¥6,160	日本史(近現代)・歴史・研究書	
2	日本中世の課税制度—段銭の成立と展開 (アジア遊学)	志賀節子・三枝暁子 編	2022/05	978-4-585-32516-1	¥3,080	¥2,464	日本史(前近代)・歴史・研究書	
3	歌う民衆と放歌高吟の近代—放歌民衆から唱歌・軍歌を歌う国民へ	永嶺重敏 著	2022/05	978-4-585-37003-1	¥3,850	¥3,080	美術・音楽・芸能・研究書	
4	近代中国美術の境界—越境する作品、交錯する藝術家 (アジア遊学)	瀧本弘之・戦暁梅 編	2022/05	978-4-585-32515-4	¥3,850	¥3,080	美術・音楽・芸能・研究書	
5	中世東国日蓮宗寺院の地域的展開	佐藤博信 著	2022/05	978-4-585-32016-6	¥13,200	¥10,560	日本史(前近代)・歴史・研究書	
6	北条義時の生涯—鎌倉幕府の草創から確立へ	菊池紳一 監修／北条氏研究会 編	2022/04	978-4-585-32014-2	¥3,080	¥2,464	日本史(前近代)・歴史・研究書	
7	杜甫研究年報 第五号 (杜甫研究年報)	日本杜甫学会 編	2022/04	978-4-585-39445-7	¥2,200	¥1,760	東洋文学・文学・研究書	
8	入門 中国学の方法	二松學舎大学文学部中国文学科 編	2022/04	978-4-585-30005-2	¥1,760	¥1,408	東洋文学・文学・研究書	
9	中世神道入門—カミとホトケの織りなす世界	伊藤聡・門屋温 監修／新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2022/04	978-4-585-31006-8	¥4,180	¥3,344	哲学・宗教・民俗・研究書	
10	ことば・ほとけ・凶像の交響—法会・儀礼とアーカイブ	近本謙介 編	2022/03	978-4-585-31009-9	¥13,200	¥10,560	哲学・宗教・民俗・研究書	
11	宗教遺産テキスト学の創成	木俣元一・近本謙介 編	2022/03	978-4-585-31008-2	¥16,500	¥13,200	哲学・宗教・民俗・研究書	
12	宋版一切経(福州版)調査提要—本源寺蔵の調査を通して	福州版一切経調査研究会 編	2022/03	978-4-585-31010-5	¥7,150	¥5,720	東洋史・歴史・研究書	
13	論究日本近代語 第2集	日本近代語研究会 編	2022/03	978-4-585-38522-6	¥16,500	¥13,200	日本語・言語・研究書	
14	一刀斎先生剣法書訳注 Ittousai Sensei Kenpousho: An Annotated Text in Modern Japanese—劍豪伊藤一刀斎の教え	竹田隆一・長尾直茂 編	2022/03	978-4-585-37002-4	¥1,980	¥1,584	日本史(前近代)・歴史・研究書	
15	アジアの出産とテクノロジー—リプロダクションの最前線 (アジア遊学)	白井千晶 編著	2022/03	978-4-585-32514-7	¥3,080	¥2,464	哲学・宗教・民俗・研究書	
16	奈良絵本『太平記』の世界—永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究	中根千絵・森田貴之 編	2022/03	978-4-585-39007-7	¥55,000	¥44,000	美術・音楽・芸能・研究書	
17	中国の娯楽とジェンダー—女が変える／女が変わる (アジア遊学)	中国ジェンダー研究会 編	2022/03	978-4-585-32513-0	¥3,080	¥2,464	社会科学・研究書	
18	訳注 琉球文学『佐銘川大ぬし由来記』『周蘭両姓記事』『思出草』『浮繩雅文集』『雨夜物語』『永峰和文』	島村幸一・小此木敏明・屋良健一郎 著	2022/03	978-4-585-39009-1	¥12,100	¥9,680	日本古典文学・文学・研究書	
19	地域文化の可能性	木部暢子 編	2022/03	978-4-585-32015-9	¥2,970	¥2,376	日本語・言語・研究書	
20	日米交流史の中の福田なをみ <i>Naomi Fukuda and the History of Japan-U.S. Exchange</i>—「外国研究」とライブラリアン <i>"Foreign Area Studies" and the Librarian</i>	小出いずみ 著 Izumi Koide	2022/02	978-4-585-30004-5	¥7,700	¥6,160	図書館学・研究書	
21	中国道教美術史 漢魏晋南北朝篇	李松 著／土屋昌明・齋藤龍一 監訳／廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美 訳	2022/02	978-4-585-37001-7	¥38,500	¥30,800	美術・音楽・芸能・研究書	
22	本朝文粹抄 七	後藤昭雄 著	2022/02	978-4-585-39511-9	¥3,520	¥2,816	日本古典文学・文学・研究書	
23	書物学 第19巻 紙のレンズから見た古典籍 (書物学)	編集部 編	2022/02	978-4-585-30719-8	¥1,980	¥1,584	日本古典文学・文学・研究書	
24	大日本帝国期の建築物が語る近代史—過去・現在・未来 (アジア遊学)	上水流久彦 編	2022/02	978-4-585-32512-3	¥3,080	¥2,464	自然科学・研究書	
25	知っておきたい和食の文化	佐藤洋一郎 編	2022/01	978-4-585-33001-1	¥3,080	¥2,464	人文・一般書	
26	宗教芸能としての能楽 (アジア遊学)	高橋悠介 編	2022/01	978-4-585-32511-6	¥3,300	¥2,640	哲学・宗教・民俗・研究書	
27	コレクションとアーカイブ—東アジア美術研究の可能性	板倉聖哲・塚本鷹充 編	2022/01	978-4-585-37000-0	¥10,450	¥8,360	美術・音楽・芸能・研究書	
28	飛鳥井家歌学の形成と展開	日高愛子 著	2022/01	978-4-585-39006-0	¥12,100	¥9,680	日本古典文学・文学・研究書	
29	古文書研究 第92号	日本古文書学会 編	2022/01	978-4-585-32402-7	¥4,180	¥3,344	日本史(前近代)・歴史・研究書	
30	聖徳太子信仰とは何か	榊原史子 著	2021/12	978-4-585-31007-5	¥4,180	¥3,344	哲学・宗教・民俗・研究書	
31	中国史書入門 現代語訳 北齊書	氣賀澤保規 監修／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/12	978-4-585-29612-6	¥6,600	¥5,280	東洋文学・文学・研究書	
32	両面の鬼神(オンデマンド版)—飛騨の宿禰伝承の謎	尾関章 著	2021/12	978-4-585-85414-2	¥2,640	¥2,112	人文・一般書	
33	都市からひもとく西アジア—歴史・社会・文化 (アジア遊学)	守川知子 編	2021/12	978-4-585-32510-9	¥3,080	¥2,464	世界史・歴史・研究書	
34	玄奘三蔵—新たなる玄奘像をもとめて	佐久間秀範・近本謙介・本井牧子 編	2021/12	978-4-585-31005-1	¥13,200	¥10,560	哲学・宗教・民俗・研究書	

勉誠出版 新刊・近刊書籍リスト (2021・2022年刊行)

No.	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価(税込)	割引価格(税込)	分野	注文数
35	市民とつくる図書館—参加と協働の視点から (ライブラリーぶっくす)	青柳英治 編著	2021/12	978-4-585-30003-8	¥2,200	¥1,760	図書館学・研究書	
36	合戦図 描かれた(武)	中根千絵・薄田大輔 編	2021/12	978-4-585-32013-5	¥17,600	¥14,080	日本史(前近代)・歴史・研究書	
37	書物に魅せられた奇人たち—英国愛書家列伝	高官利行 著	2021/12	978-4-585-39005-3	¥4,180	¥3,344	欧米文学・文学・研究書	
38	室町前期の文化・社会・宗教—『三国伝記』を読みとく (アジア遊学)	小助川元太・橋本正俊 編	2021/11	978-4-585-32509-3	¥3,080	¥2,464	哲学・宗教・民俗・研究書	
39	列伝体 妖怪学前史	伊藤慎吾・水厘亭氷泉 編	2021/11	978-4-585-32010-4	¥3,080	¥2,464	人文・一般書	
40	慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏影印・解題研究	慶應義塾大学論語疏研究会 編	2021/11	978-4-585-31004-4	¥19,800	¥15,840	東洋文学・文学・研究書	
41	水門 第三十号—言葉と歴史 (水門)	水門の会 編	2021/11	978-4-585-32461-4	¥3,300	¥2,640	日本古典文学・文学・研究書	
42	資料論がひらく軍記・合戦図の世界—理文融合型資料論と史学・文学の交差 (アジア遊学)	井上泰至 編	2021/10	978-4-585-32508-6	¥3,520	¥2,816	日本史(前近代)・歴史・研究書	
43	従軍日記と報道挿絵が伝える庶民たちの日露戦争	西川武臣 著	2021/10	978-4-585-32008-1	¥4,180	¥3,344	日本史(近現代)・歴史・研究書	
44	近代日本語教科書語彙索引	伊藤孝行 編	2021/10	978-4-585-38002-3	¥8,800	¥7,040	日本語・言語・研究書	
45	英国初期印刷本研究への誘い—書誌学から文学・社会・歴史研究へ	向井剛 著	2021/10	978-4-585-32012-8	¥6,600	¥5,280	世界史・歴史・研究書	
46	古典は遺産か? 日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造 (アジア遊学)	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	978-4-585-32507-9	¥3,080	¥2,464	日本古典文学・文学・研究書	
47	室町文化の座標軸—遣明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	978-4-585-32011-1	¥10,780	¥8,624	日本史(前近代)・歴史・研究書	
48	日本中世社会と村住人	蔵持重裕 編	2021/10	978-4-585-32009-8	¥10,450	¥8,360	日本史(前近代)・歴史・研究書	
49	核抑止の理論と歴史—核の傘の信頼性を焦点に	矢野義昭 著	2021/10	978-4-585-33000-4	¥14,300	¥11,440	社会科学・研究書	
50	怪異学講義—王権・信仰・いとなみ	東アジア怪異学会 編	2021/09	978-4-585-32007-4	¥3,520	¥2,816	哲学・宗教・民俗・研究書	
51	説話の東アジア—『今昔物語集』を中心に	高陽 著	2021/09	978-4-585-39004-6	¥13,200	¥10,560	日本古典文学・文学・研究書	
52	戦国時代劇メディアの見方・つくり方—戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/09	978-4-585-32006-7	¥3,520	¥2,816	人文・一般書	
53	アヘンからよむアジア史 (アジア遊学)	内田知行・権寧俊 編	2021/09	978-4-585-32506-2	¥3,080	¥2,464	東洋史・歴史・研究書	
54	首里城を解く—文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修/島村幸一 編	2021/09	978-4-585-32001-2	¥4,180	¥3,344	日本史(前近代)・歴史・研究書	
55	日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/08	978-4-585-31003-7	¥13,200	¥10,560	哲学・宗教・民俗・研究書	
56	書物のなかの近世国家—東アジア「一統志」の時代 (アジア遊学)	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/08	978-4-585-32505-5	¥3,300	¥2,640	東洋史・歴史・研究書	
57	古建築調査ハンドブック	山岸常人・岸崇子・登谷伸宏 著	2021/08	978-4-585-35000-2	¥1,540	¥1,232	人文・一般書	
58	中世武家領主の世界—現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/08	978-4-585-32003-6	¥4,180	¥3,344	日本史(前近代)・歴史・研究書	
59	近世の村と百姓	渡辺尚志 著	2021/08	978-4-585-32002-9	¥10,780	¥8,624	日本史(前近代)・歴史・研究書	
60	史料が語る東インド航路—移動がうみだす接触領域 (アジア遊学)	水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/07	978-4-585-32504-8	¥3,080	¥2,464	世界史・歴史・研究書	
61	杉田玄白と江戸の蘭学塾—「天眞樓」塾とその門流	片桐一男 著	2021/07	978-4-585-32004-3	¥7,700	¥6,160	日本史(前近代)・歴史・研究書	
62	谷崎潤一郎 美と生命の間	柴田勝二 著	2021/07	978-4-585-39003-9	¥3,960	¥3,168	日本近現代文学・文学・研究書	
63	交錯する宗教と民族—交流と衝突の比較史 (アジア遊学)	鹿毛敏夫 編	2021/07	978-4-585-32503-1	¥3,080	¥2,464	日本史(前近代)・歴史・研究書	
64	古文書研究 第91号	日本古文書学会 編	2021/07	978-4-585-32401-0	¥4,180	¥3,344	日本史(前近代)・歴史・研究書	
65	もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	2021/07	978-4-585-39001-5	¥2,640	¥2,112	文芸・一般書	
66	元朝の歴史—モンゴル帝国期の東ユーラシア (アジア遊学)	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/06	978-4-585-32502-4	¥3,520	¥2,816	東洋史・歴史・研究書	
67	書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/06	978-4-585-30002-1	¥17,600	¥14,080	日本史(前近代)・歴史・研究書	
68	創られた由緒—近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/06	978-4-585-31002-0	¥8,800	¥7,040	哲学・宗教・民俗・研究書	
69	中世寺院の仏法と社会	永村眞 編	2021/06	978-4-585-31001-3	¥13,200	¥10,560	哲学・宗教・民俗・研究書	
70	パブリック・ヒストリー入門(オンデマンド版)—開かれた歴史学への挑戦	菅豊・北條勝貴 編	2021/05	978-4-585-82254-7	¥5,280	¥4,224	日本史(近現代)・歴史・研究書	
71	三島由紀夫と日本国憲法	藤野博 著	2021/05	978-4-585-39002-2	¥3,300	¥2,640	文芸・一般書	
72	ベトナム語空間ダイクシスとその展開—指示詞から文末詞・感動詞へ	安達真弓 著	2021/05	978-4-585-38001-6	¥11,000	¥8,800	外国語・言語・研究書	
73	ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京(オンデマンド版)	日本近代文学館 編	2021/05	978-4-585-89163-5	¥3,080	¥2,464	日本近現代文学・文学・研究書	

勉誠出版 新刊・近刊書籍リスト (2021・2022年刊行)

No.	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価(税込)	割引価格(税込)	分野	注文数
74	鉄幹晶子全集 別巻8—拾遺篇 書誌・年譜〈鉄幹晶子全集〉	逸見久美ほか 編	2021/05	978-4-585-01093-7	¥9,900	¥7,920	日本近現代文学・文学・研究書	
75	新しい産業創造へ (デジタルアーカイブ・ベーシック)	時実象一 監修/久永一郎 責任編集	2021/05	978-4-585-20285-1	¥2,750	¥2,200	図書館学・研究書	
76	大宅壮一文庫解体新書—雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志 編	2021/05	978-4-585-30001-4	¥3,850	¥3,080	社会科学・研究書	
77	改訂新版 中国学入門(オンデマンド版)—中国古典を学ぶための13章	二松學舎大学文学部中国文学科 編	2021/04	978-4-585-80056-9	¥1,760	¥1,408	入門書・一般書	
78	杜甫研究年報 第四号 (杜甫研究年報)	日本杜甫学会 編	2021/04	978-4-585-39444-0	¥2,200	¥1,760	東洋文学・文学・研究書	
79	変化する社会とともに歩む学校図書館 (ライブラリーぶっくす)	野口武悟 著	2021/04	978-4-585-20081-9	¥2,420	¥1,936	図書館学・研究書	
80	物語文学の諸相と展開	中野幸一 著	2021/03	978-4-585-39000-8	¥13,200	¥10,560	日本古典文学・文学・研究書	
81	日本語文字論の挑戦—表記・文字・文献を考えるための17章	加藤重広・岡墻裕剛 編	2021/03	978-4-585-38000-9	¥7,700	¥6,160	日本語・言語・研究書	
82	勤番武士の江戸滞在記—国枝外右馬江戶詰中日記	岩淵令治 編	2021/03	978-4-585-32000-5	¥11,000	¥8,800	日本史(前近代)・歴史・研究書	
83	東アジアにおける知の往還 (アジア遊学)	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 共編	2021/03	978-4-585-32501-7	¥3,080	¥2,464	日本古典文学・文学・研究書	
84	パリ・ノートルダム大聖堂の伝統と再生—歴史・信仰・空間から考える	坂野正則 編	2021/03	978-4-585-31000-6	¥8,800	¥7,040	哲学・宗教・民俗・研究書	
85	ささえあう図書館(オンデマンド版)—「社会装置」としての新たなモデルと役割 (ライブラリーぶっくす)	青柳英治 編著/岡本真 監修	2021/03	978-4-585-90039-9	¥1,980	¥1,584	図書館学・研究書	
86	土地の記憶から読み解く早稲田—江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カーロリ 著/大内紀彦、フリッポ・ドルネッティ 訳	2021/03	978-4-585-22299-6	¥2,970	¥2,376	人文・一般書	
87	日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/03	978-4-585-20074-1	¥3,850	¥3,080	図書館学・研究書	
88	江戸川乱歩大事典	落合教幸・阪本博志・藤井淑禎・渡辺憲司 編	2021/03	978-4-585-20080-2	¥13,200	¥10,560	辞・事典・研究書	
89	増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/02	978-4-585-22280-4	¥4,180	¥3,344	日本史(前近代)・歴史・研究書	
90	真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城司・小幡伍 編著	2021/02	978-4-585-29204-3	¥9,900	¥7,920	日本古典文学・文学・研究書	
91	観相の文化史	相田満 著	2021/02	978-4-585-29203-6	¥9,900	¥7,920	日本古典文学・文学・研究書	
92	中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/02	978-4-585-22300-9	¥10,450	¥8,360	日本史(前近代)・歴史・研究書	
93	コーパスと近代日本語書き言葉の一人称代名詞の研究	近藤明日子 著	2021/02	978-4-585-28052-1	¥9,350	¥7,480	日本語・言語・研究書	
94	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	978-4-585-22301-6	¥9,900	¥7,920	日本史(前近代)・歴史・研究書	
95	鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/02	978-4-585-22297-2	¥4,180	¥3,344	日本史(前近代)・歴史・研究書	
96	韓国・朝鮮説話学の形成と展開	金廣植 著	2021/02	978-4-585-29201-2	¥12,100	¥9,680	東洋文学・文学・研究書	
97	大嘗祭—隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/01	978-4-585-21057-3	¥4,180	¥3,344	哲学・宗教・民俗・研究書	
98	古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/01	978-4-585-22277-4	¥3,300	¥2,640	人文・一般書	
99	メソアメリカ文明ゼミナール	伊藤伸幸 監修/嘉幡茂・村上達也 編	2021/01	978-4-585-22296-5	¥5,500	¥4,400	世界史・歴史・研究書	
100	和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/01	978-4-585-29202-9	¥16,500	¥13,200	日本古典文学・文学・研究書	
101	絶滅危惧種を喰らう	秋道智彌・岩崎望 編	2021/01	978-4-585-24014-3	¥3,520	¥2,816	自然科学・研究書	
102	明治の一発屋芸人たち—珍芸四天王と民衆世界	永嶺重敏 著	2021/01	978-4-585-27058-4	¥3,850	¥3,080	美術・音楽・芸能・研究書	

史学科の比較史

歴史学の制度化と近代日本

定価七、七〇〇円(税込)
(本体七、〇〇〇円)

A5判並製カバー装・六〇八頁
二〇二二年五月刊行
ISBN978-4-585-32017-3 C3020

●本書で取り上げる
大学・研究機関

東京帝国大学・史料
編纂所・京都帝国大学・
東北帝国大学・九州
帝国大学・京城帝国
大学・台北帝国大学・
建国大学・商科大学
／東京商科大学(橋
大学)・旧師範学校
／
廣島文理大学(廣島大
学)・早稲田大学・慶
應義塾大学・立教大学・
龍谷大学・皇典講究所・
國學院大学

私たちの社会と歴史との
関係のあり方は
どのように形作られてきたのか。
その淵源を探る――

近代日本に大学が創設されたころ、西洋の制度を取り入れるなかで、各
大学に歴史学を学ぶ「史学科」が設置された。近世以来の国学・漢学・洋学・
宗教学の系譜、当該大学の置かれた場と地域固有史料との関係など、
それぞれ固有の背景のもと、各「史学科」は独自の理念や方向性のもと
で展開し、近代日本の学的世界を形成した。そして、それらは現在まで
受け継がれ、私たちの社会と歴史との関係のあり方をも規定している。
帝国大学、植民地・外地の大学、官立大学、私立大学より十三の特筆すべ
き大学・機関を抽出。修史事業の開始した一八六九年から一九四五年に至
るまでの、帝国日本における史学科・研究機関の歴史をたどる。比較史的
アプローチより近代社会における史学科の展開と特徴を明らかにする画期
的成果。

目次

- 序章 史学科をめぐるヒストリオグラフィ◎小澤実・佐藤雄基
- 第一部 帝国大学
 - 第一章 東京帝国大学：東京帝国大学における史学と国史——史料編纂事業との関わりと卒業生進路から◎佐藤雄基
 - 第二章 史料編纂所：史料編纂所の歴史家たち——相田二郎を中心に◎近藤成一
 - 第三章 京都帝国大学：草創期の京都帝国大学国史学の特徴——時期区分論と世界史◎上島亨
 - 第四章 東北帝国大学：創設期の東北大学日本史研究室◎柳原敏昭
 - 第五章 九州帝国大学：九州帝国大学法文学部における歴史学◎山口輝臣
- 第二部 植民地・外地の大学
 - 第六章 京城帝国大学・台北帝国大学・建国大学：京城帝国大学法文学部の史学系講座とその歴史学研究——台北帝大、満洲・建国大学との比較的視点を踏まえた考察◎永島広紀
- 第三部 官立大学
 - 第七章 商科大学／東京商科大学(二橋大学)：東京商科大学における日本史教育◎夏目琢史
 - 第八章 旧師範学校／廣島文理大学(廣島大学)：廣島文理科大学・広島高等師範学校における歴史学◎石田雅春
- 第四部 私立大学
 - 第九章 早稲田大学：早稲田大学史のなかの歴史学◎廣木尚
 - 第十章 慶應義塾大学：独立自尊の歴史学——田中萃一郎と三田史学の展開◎堀和孝
 - 第十一章 立教大学：小林秀雄の時代——戦前戦中の立教史学科、史学会、「史苑」◎小澤実
 - 第十二章 龍谷大学：大正・昭和戦前期の龍谷大学史学科——その沿革と学風◎坂口太郎
 - 第十三章 皇典講究所・國學院大学：近代国学と国史学——國學院大学の国史学科と国史学会◎藤田大誠
 - 終章 史学科の比較史へ◎佐藤雄基・小澤実

小澤実・佐藤雄基〔編〕

立教大学文学部教授、
専門は西洋中世史・
北欧史・史学史。

立教大学文学部教授。
専門は日本中世史・史学史。

関係年表・執筆者紹介・人名索引

書名	部数
史学科の比較史——歴史学の制度化と近代日本 小澤実・佐藤雄基〔編〕	部
定価7,700円・本体7,000円 A5判並製カバー装・608頁 2022年5月刊行 ISBN978-4-585-32017-3 C3020	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

日本中世の課税制度 段銭の成立と展開

志賀節子
三枝暁子

〔編〕

アジア遊学
270

日本中世の「公共事業」を支えた税制を探る

段銭（反銭）は、田一反毎に一定額の銭を一律に賦課した中世特有の税制である。朝廷・幕府の行う国家的行事や、寺社の造営・修造などを名目として臨時に賦課徴収された。その実態は時期により変容しており、

室町幕府をはじめ守護や寺社など、様々な賦課主体が、どのように段銭を徴収していたのかについては、これまで十分には検討されていない。

国家中枢から在地社会に至るまでの諸階層が、深く関与していた段銭徴収の実態を探ることで、日本中世の収取構造、さらには税制を通じた支配秩序の形成過程を明らかにする。

〔编者紹介〕

志賀節子（しが せつこ）

賀茂別雷神社史料編纂会委員。専門は日本中世史。

主な著書・論文に『中世荘園制社会の地域構造』（校倉書房、二〇一七年）、賀茂別雷神社境内六郷における収取制度と本役正税（東京大学史料編纂所研究成果報告二〇二〇—二〇二二）賀茂別雷神社の所領と氏人（二〇二二年）などがある。

三枝暁子（みえだ あきこ）

東京大学大学院人文社会系研究科准教授。専門は日本中世都市史、身分制論。

主な著書に『比叡山と室町幕府—寺社と武家の京都支配—（東京大学出版会、二〇一一年）、『京都 天神をまつる人びと—ずいきみこしと西之京—（写真 西村豊）（岩波書店、二〇一四年）などがある。

〔目次〕

序章

論集の刊行意図と本書の構成：志賀節子
段銭研究の現状と課題：高木 純

Ⅰ 室町幕府段銭収取制度の成立と展開

平安・鎌倉期の段米・段銭

——一國平均役との関係を中心に：永松圭子

足利義満政権下での官庁段銭について：辰田芳雄

康正二年造内裏段銭の収納機関

——国立国会図書館本「造内裏段銭并国役引付」の検討から

：永山 愛

室町幕府將軍直臣編成の展開と京濟・守護不入特権：松井直人

室町期京都における地口銭賦課体制の成立過程：長崎健吾

Ⅱ 荘園領主段銭の諸様相

戦国期北野社の領主段銭：三枝暁子

戦国期賀茂別雷神社の収取制度と段銭：志賀節子

〔史料紹介〕戦国時代の調符・段銭請取状の料紙：石川美咲

Ⅲ 守護・戦国大名段銭の変容過程

天文七年の山城下部段銭と三好政長：馬部隆弘

十五世紀後半における備後守護山名氏の段銭収取と國人

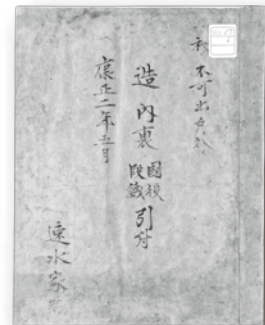
：伊藤大貴

戦国大名毛利氏による備中一宮社領への段銭賦課：吉永隆記

大内氏分国における段銭収取システムと知行制：川岡 勉

終章

段銭研究の可能性——成果と課題：三枝暁子



定価二、〇八〇円（税込）
本体二、八〇〇円

A5判並製カバー装・二三四頁

二〇二二年五月刊行

ISBN978-4-585-32516-1 C1321

書名	部数
日本中世の課税制度 段銭の成立と展開 志賀節子・三枝暁子〔編〕	定価3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・224頁 2022年5月刊行 ISBN978-4-585-32516-1 C1321
ご送付先ご住所（通信欄）	
部	

歌う民衆と放歌高吟の近代

放歌民衆から唱歌・軍歌を

歌う国民へ

永嶺重敏 [著]

歌うことが「罪」だった時代――



万葉時代に若い男女が愛を歌い交わした「歌垣」、船唄や木遣り歌などの仕事唄など、古来日本人の生活は歌とともにあった。

しかし、明治になり、文明開化の流れの中で、卑猥な歌詞の俗謡、乱酔放歌などの暴行事件などが多発したことにより、放歌――辺りかまわず大声で歌うこと――は

野蛮な行為と見なされ、処罰の対象となった。

日常生活のありふれた行為であるがゆえに、意識されず、記録に残されることの少なかった「放歌」の歴史を、犯罪記録として残った資料、多数の図版とともに丹念に紐解く。明治の民衆の「歌う文化」を見つめなおす格好の一冊！

著者プロフィール

永嶺重敏

(ながみね・しげとし)

一九五五年、鹿児島県生まれ。九州大学文学部卒業。出版文化・大衆文化研究者。日本出版学会、日本メデアア学会、メデアア史研究会、日本ボビュラー音楽学会会員。主な著書に『読書国民の誕生―明治30年代の活字メデアアと読書文化』(日本エディタースクール出版部、二〇〇四年)、『リンゴの唄』(の真実―戦後初めての流行歌を追う) (青弓社、二〇一八年)、『明治の一発屋芸人たち―珍芸四天王と民衆世界』(勉誠出版、二〇二〇年)などがある。

目次

序章 「歌う行為」の歴史と「放歌」という視点

第二部 明治の路上放歌と歌う民衆の世界

第一章 「路上で歌う行為」が犯罪となった時代

――放歌罪の成立過程と展開

- 一 放歌高吟は「開けぬ国」の旧弊／二 前史(明治三十五年)―乱酔放歌の禁止／三 違式誅違条例(明治五十四年)―道府県単位での放歌罪／四 旧刑法の違警罪―放歌罪の全国化(明治十五―四十年)／五 街路取締規則と放歌規制／六 放歌罪目の消失―現行刑法と警察犯処罰令(明治四十二年)

第二章 路上放歌をめぐる民衆と巡査の市中攻防戦

- 一 警察統計と五百人の放歌犯／二 放歌犯の実態
- 三 侮辱放歌による民衆の反撃

第二部 生活や労働の中に根付く「歌う文化」

第三章 湯屋とろう放歌空間

- 一 湯屋取締規則と湯屋の構造／二 湯屋での放歌と「芸尽し」
- 三 汽車・人力車や花見、監獄での放歌

第四章 仕事唄を歌う明治の労働者

――来日西洋人による「歌う民族」の発見

- 一 仕事唄と来日西洋人の見聞記／二 西洋人を驚かせた歌う船乗りと馬方／三 地搦きと木遣りの工夫も歌う／四 工場内で放歌する女工たち

第三部 放歌世界から教育訓練型の歌の世界へ

第五章 放歌世界と唱歌・軍歌の導入

- 一 俗謡と放歌世界の特徴／二 唱歌教育の導入と俗謡改良
- 三 軍歌を歌う兵士の誕生／四 兵士と放歌

第六章 学生の放歌高吟文化の形成過程

- 一 明治十年代の学生生活と放歌高吟の禁止／二 明治二十年代の寮生活と「花は桜木」の誕生／三 一高的伝統の始まりと寮歌の誕生／四 放歌高吟文化の制度化

結び 路上の歌声の変貌――明治から大正へ

終章 デモ行進歌の誕生と展開

――政治・社会運動と歌の利用

- 一 民権運動と歌と行進の利用／二 デモ行進歌の誕生
- 三 「社会主義の歌」と「革命歌」／四 大正以降の展開――普選歌とメーデー歌の高唱

おわりに

定価 二八五〇円(税込)

四六判並製カバー装・二八八頁

ISBN978-4-585-37003-1 C0073

二〇二二年五月刊行

書名	部数
歌う民衆と放歌高吟の近代 放歌民衆から唱歌・軍歌を歌う国民へ	
永嶺重敏 [著]	
定価3,850円(税込)・本体3,500円	
四六判並製カバー装・288頁	
2022年5月刊行	
ISBN978-4-585-37003-1 C0073	
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	部

近代中国美術の 境界

瀧本弘之・戦晓梅 [編]

越境する作品、
交錯する藝術家

知られざる、
東アジア美術交流史

清朝崩壊からの約半世紀、中国大陸は中心のない空白時期で政治・経済・文化ともに無秩序の混乱が続いた。

そうした中でも、美術家や団体は、海外や美術界の「外」との交流や接触により、新しい藝術思潮や動向に強い関心を寄せて美術活動を展開した。そこには多様な豊かな美術・文化が息づいていた。

中国の画家は日本の美術界とどのように関わり、独自の作品世界を形成していったのか。中国美術史の記述は日本からどのような影響を受けたのか。また、美術品はどこでどのように収蔵されてきたのか。

美術作品をめぐる人的ネットワーク、海を越えて伝えられたコレクションの変遷にも着目し、多角的な視点から近代中国美術の実像に迫る。

【編者紹介】

瀧本弘之（たきもと ひろゆき）

著述家・中国版画研究者。専門は美術一般、古版画・近代版画。主な編著書に『中国古典文学挿画集成』(一)～(十)(遊子館、一九九九～二〇一二年)など。

戦晓梅（せんきょうばい）

東京工業大学准教授。専門は日中近代美術交流史。主な著書に『鉄斎の陽明学』（勉誠出版、二〇〇四年）など。

【目次】

序説「近代中国美術の境界」への随想…瀧本弘之

I 美術をめぐる、美術を超えて

- 「西湖藝展」開催の経緯―「斎藤佳三資料」を手がかりに…吉田千鶴子
- 上海租界のフランス語新聞にみる近代中国美術
- ―林風眠と杭州国立藝術院を中心に…趙怡
- 一九三〇年代の北平画壇のグリーンパス…瀧本弘之
- 長尾雨山の近代日中美術交流における貢献…松村茂樹
- 魯迅とケーテ・コルヴィッツ
- ―日本プロレタリア美術運動との関わりを中心に…東家友子
- 太平洋の対岸へ発信された「辺区像」
- ―中国共産党の海外宣伝事業に使われた「延安木版画」を解析する…陳琦
- 戯劇改良運動初期の石版戯曲年画「二十四紀新茶花」について…三山陵
- 京劇俳優梅蘭芳と日本美術界の交流について…佐々木幹

II 日本に行く画家、中国に行く画家

徐悲鴻と文展作品

―そこから得たもの…華天雪(翻訳・林佳美/翻訳協力:李趙雪)

「コラム」嶺南画派と日本…李趙雪

―一九三〇年代の東京における李仲生の画業について…呉孟晋

「コラム」近代中国における「裸体画論争」

―日本との比較を視野に入れて…龔珏

朝鮮近代美術史を歩んだ洋画家・鄭温女

―ある女子美術専門学校卒業生の生涯…畑山康幸

「コラム」顕現と隠蔽―従軍画家の描いた戦時中の中国…劉建輝

III 中国美術品の収蔵、中国美術史の記述

チェコのコレクターと近代中国絵画…オリボバルツイエ(翻訳:東家友子)

近代書画碑帖収蔵史について…下田章平

廉泉「小萬柳堂書画コレクション」の初来日再考

―「南湖東遊日記」を主な手掛かりに…戦晓梅

外国人宣教師の目録でつくられた土山瀧孤児院の黄楊人形

―天理参考館所蔵資料を例にして…中尾徳仁

「コラム」「徐家匯板聖徒像」の発見…瀧本弘之

「コラム」ベトナム絵画の「父」と「兄」―画家ナム・ソンの美術論…二村淳子

あとがき…戦晓梅

年号対照表



定価二、八五〇円(税込)
 本体三、五〇〇円
 A5判並製カバー装
 カラー口絵四頁+本文三六八頁
 二〇二二年五月刊行
 ISBN978-4-585-32515-4 C1370

アジア遊学 269



書名	近代中国美術の境界	【アジア遊学 269】	定価3,850円(税込)・本体3,500円	部数
	越境する作品、交錯する藝術家		A5判並製カバー装・カラー口絵4頁+本文368頁	
	瀧本弘之・戦晓梅 [編]		2022年5月刊行	
			ISBN978-4-585-32515-4 C1370	部
ご送付先(氏名・住所・電話番号)				

佐藤博信

著

中世東国 日蓮宗寺院の 地域的展開

中世社会の構造と特質をとらえる

安房妙本寺及びそれと対立と競合を繰り返した駿河富士門流寺院(富士五山。北山本門寺・大石寺・西山本門寺など)の展開を中心にして東国の日蓮宗寺院における門流支配の実態を政治・経済・宗教の三位一体的関係の把握という視点から明らかにし、その中世から近世への史的展開を浮き彫りにする。

関係寺院に伝来する文書史料のみならず、各地に散在する聖教類・曼荼羅本尊・石造物など多様な資料を博搜し、寺院間の権力をめぐる対立と緊張、大名と領主との関係、由緒と伝統の創成、地域社会への影響などを解明。従来研究のない上総藻原寺の研究も含めて、長年、中世東国史研究を牽引してきた著者による最新の研究成果。

【本書の特色】

- 中世東国の権力構造に関する諸問題・課題を提示。
- 政治史・寺院史・経済史等、諸分野を架橋する基盤研究。

【著者プロフィール】
佐藤博信(さとうひろのぶ)

千葉大学名誉教授。専門は中世東国史。主な著書に『中世東国日蓮宗寺院の研究』(東京大学出版会、二〇〇三年)、『越後中世史の世界』(岩田書院、二〇〇六年)、『中世東国足利・北条氏の研究』(岩田書院、二〇〇六年)、『中世東国政治史論』(瑞書房、二〇〇六年)、『安房妙本寺日我一代記』(思文閣出版、二〇〇七年)、『中世東国の権力と構造』(校倉書房、二〇一三年)、『日蓮宗寺院の歴史と伝承』(山喜房佛書林、二〇一七年)、『中世東国日蓮宗寺院史論』(瑞書房、二〇二二年)などがある。

【目次】

カラー口絵
はじめに
凡例

第一部 駿河富士諸寺の展開

第一章 「富士四ヶ寺」から「富士五ヶ寺」へ

第二章 妙本寺門流の展開と小泉久遠寺

第三章 小泉久遠寺末寺の成立と展開

第四章 駿河興津氏と大石寺東坊地相論に関する一考察

第五章 北山本門寺と西山本門寺

第六章 北山本門寺と西山本門寺

第七章 北山本門寺の近世的展開とその特徴

第八章 日興墳墓と檀那井出氏に注目して

第九章 下条妙蓮寺の歴史的展開

第十章 「富士五ヶ寺」への道程

第二部 上総藻原寺の展開

第一章 上総藻原郷二宮庄・藻原寺の中世的展開

第二章 藻原寺檀那松本久右衛門家所蔵史料について

第三章 安房妙本寺の展開

第四章 妙本寺関係史料からみる自然災害史序説

第五章 妙本寺と中山法華経寺

第六章 日我と法華問答

第七章 「宗論」をめぐる

第八章 日我と蔵書

第九章 「曾我物語」「八雲抄」などをめぐって

第十章 妙本寺における由緒と伝統の創成

第十一章 特に関与した文書について

第十二章 鶴岡八幡宮若宮別当定尊安堵状について

第十三章 享徳年号の襲用をめぐる

第十四章 鶴岡八幡宮若宮別当定尊安堵状について

第十五章 享徳年号の襲用をめぐる

第十六章 鶴岡八幡宮若宮別当定尊安堵状について

第十七章 享徳年号の襲用をめぐる

第十八章 享徳年号の襲用をめぐる

第十九章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十一章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十二章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十三章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十四章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十五章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十六章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十七章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十八章 享徳年号の襲用をめぐる

第二十九章 享徳年号の襲用をめぐる

第三十章 享徳年号の襲用をめぐる

定価 1,111円(税込)

[本体 1,000円]

A5判上製

本文512頁+カラー口絵2頁

1100年5月刊行

ISBN978-4-585-32016-6 C3021

部数

中世東国日蓮宗寺院の
地域的展開

佐藤博信 [著]

定価 13,200円(本体価格12,000円)

A5判上製・本文512頁+カラー口絵2頁
ISBN 978-4-585-32016-6 C3021
2022年5月刊行

部

ご送付先ご住所・氏名(通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

北条義時の生涯

鎌倉幕府の草創から確立へ

菊池紳一 [編]

二〇二二年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の主人公である北条義時。彼はどのような生涯を送り、どのように政権を握り、戦乱の世を生き抜いたのか。

北条義時を中心に据え、義時がかかわった鎌倉幕府の政治や制度、彼をめぐる人物・出来事から鎌倉幕府の成立、転換点を見直す。義時の執政、承久の乱の影響、13人の合議制、北条氏の発給文書、『吾妻鏡』や伝承・史跡から見る後世の義時像、などの多角的な章立て・多彩なコラムにより、新たな北条義時像、鎌倉幕府の姿を浮き彫りにする。北条義時に関する詳細な年譜も付す。

大河ドラマの世界をより深く楽しめる、最適の一冊！

編者プロフィール

菊池紳一 (きくち しんいち)

一九四八年山形県生まれ。元前田育徳会常務理事、尊経閣文庫主幹。北条氏研究会代表。

著書に「図説 前田利家―前田育徳会の史料にみる―(新人物往来社、二〇〇二年)、「加賀前田家と尊経閣文庫―文化財を守り、伝えた人々―(勉誠出版、二〇一六年)、「源家滅亡―尼御台所と北条義時の時代―(山川出版、二〇二二年)、論文に「北条政子発給文書について」(北条氏研究会編「北条氏発給文書の研究」、勉誠出版、二〇一九年)などがある。

定価 3,080円(税込)
本体2,800円

四六判並製カバー装・368頁
ISBN978-4-585-32014-2 C1021
2022年4月刊行

目次

はじめに：菊池紳一・北爪寛之

第一部 北条義時の生涯

- 第一章 北条義時の出生から源頼朝の挙兵
- 第二章 鎌倉政権の成立と源頼朝
- コラム 源頼朝と北条義時
- 第三章 源頼朝の死と北条時政の台頭
- コラム 十三人の合議制と鎌倉殿源頼家
- 第四章 北条義時と和田合戦
- 第五章 将軍源実朝の死と承久の乱
- コラム 源実朝暗殺をめぐる北条義時
- コラム 後鳥羽上皇と北条義時追討宣旨忍
- 第六章 北条義時の死と伊賀氏の変
- コラム 北条義時の遺領

第二部 北条義時をめぐる人々

- 第一章 将軍家(源家)の一族
- 第二章 北条氏一族
- コラム 北条義時の姉妹と娘たち
- コラム 北条一族の官位
- 第三章 その他の人々

第三部 執権北条義時と政所

- 第一章 執権北条義時と政所
- コラム 北条義時の発給文書
- コラム 北条氏と侍所遠山久也
- コラム 北条義時と一門の守護
- コラム 北条氏と相模・武蔵両国

第四部 承久の乱の影響

第五部 偽史・史跡・伝承

- 第一章 「子章記」にみる源氏三代と北条氏
- 第二章 北条義時と武士の都鎌倉
- 第三章 その後の北条義時像
- 第四章 史料としての『吾妻鏡』
- 付録 北条義時関連年表／参考文献一覧
- 執筆項目一覧

あとがき：菊池紳一

【執筆者】(掲載順)菊池紳一・北爪寛之・山野龍太郎・下山忍・山野井功夫・齊藤直美・永井晋・牡丹健一・川島優美子・遠山久也・泉田崇之・磯川いづみ・塚本洋司・池田悦雄・森幸夫

書名	部数
北条義時の生涯 鎌倉幕府の草創から確立へ 菊池紳一 [編]	部
定価3,080円(税込)・本体2,800円 四六判並製カバー装・368頁 2022年4月刊行 ISBN978-4-585-32014-2 C1021	
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

入門 中国学の方法

【目次】

文字学 ● 戸内俊介

街角の漢字の源流を辿って——「風月堂」の「風」はなぜ「風」か

中国文学 ● 牧角悦子

神話と詩——文学研究の方法論

中国女性史 ● 仙石知子

何のために女性を描くのか——劉向「列女伝」

中国思想 ● 田中正樹

中国の古典思想文献を読む——『論語』を読んでみよう

古典小説 ● 伊藤晋太郎

『三国志演義』を研究する

校勘学 ● 小方伴子

清代に於ける書物の伝承と校勘——校本及びその題跋を手掛かりとして

日本漢学 ● 町泉寿郎

日本漢学とその研究方法をめぐって

中国文献学 ● 王宝平

中国学研究の新動向——中国における「域外漢籍」研究について

書道 ● 高澤浩一

中国書道史の旅

書道 ● 福島一浩

墨跡・禅僧の書——宋時代・鎌倉時代から届いた心の痕

漢文訓読法入門 ● 市來津由彦

返り点を付ける

お役立ちサイト集

「文化の宝庫」を
学ぶために

中国の言語・文学・歴史・思想・芸術等、中国文化が育んできた諸成果を研究する「中国学」。

中国学は、長大な歴史的経験を経た先人達の膨大な知恵を効率よく吸収し、自己の思考の糧とすることができ、非常に優れた学問であり、また我々が未来に向けて行動する際に参照すべき「指針」や「教訓」の宝庫と言える。

本書では、古代から二十一世紀にいたる多様な中国文化及び日本に受容された中国文化「日本漢学」の研究方法について、具体例にもとづき丁寧に解説する。

「文字学(漢字)」、「中国文学(神話と詩)」、「中国女性史(列女伝)」、「中国古典テキスト(論語)」、「中国小説(三国志演義)」、「校勘学(国語)」、「日本漢学」、「域外漢籍」、「日・中国書道」、「中国古典読解(漢文訓読)」をテーマとした、中国学の「方法」を学ぶための11章。

書名	部数
入門 中国学の方法	部
二松學舎大学文学部中国文学科「編」	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

定価 1,760円 (本体価格 1,600円)

A5判並製カバー装・264頁
ISBN 978-4-585-30005-2 C1000
2022年4月刊行

中世神道入門

カミとホトケの織りなす世界

伊藤 聡
門屋 温
〔監修〕

新井大祐
鈴木英之
大東敬明
平沢卓也
〔編〕

ダイナミックな発展を遂げた
中世日本の神道がわかる、
初のガイドブック！

日本古来の信仰でありながらも、
時代とともにめまぐるしい変化を遂げてきた「神道」。
中世日本では、仏教と神道の融合現象——「神仏習合」が
極めて発展的な展開をみせ、両部神道・伊勢神道・吉田神道など、
さまざまな神道の流派の諸派が生まれた。
また、儀礼のありかた、

体系的に組み合わせられた空間・図像・言説などにより、
独自の世界観・世界像を築き、同時代の宗教のみならず
政治・文化にも多大な影響を与えてきた。
近年、急速に研究の進展する「中世神道」の見取り図を、
「神道の流派」「基本的な概念」「中世の神々」「神話モチーフ」
「神道をめぐる人々」「イメージ」「神道書」など
テーマごとに立項し、第一線で活躍する研究者が、
多数の図版とともにわかりやすく解説する決定版！

【目次】

カラー口絵
序言

1 総論

中世神道とは／神仏習合の諸相／中世神道
流派概説／神道伝授のかたち

2 中世の神々

古典神の変貌／広がる信仰／習合神の諸相
／鎌倉仏教の神

3 中世神話のモチーフ

4 中世神道の イメージとイコノロジー

5 中世神道をめぐる人々

中世日本紀／両部神道／伊勢神道／山王神
道／吉田神道／その他

6 中世神道書の世界

【附説】欧米言語による中世神道研究
【附録】中世神道研究のための文献リスト
あとがき

執筆者紹介

定価 四、一八〇円（税込）
本体三、八〇〇円

A5判並製カバー装・

カラー口絵八頁＋本文三三九頁

二〇二二年四月刊行

ISBN978-4-585-31006-8 C1014

掲載掲版
70点超!

【監修者プロフィール】

伊藤 聡 (いとう・さとし)

茨城大学人文社会科学部教授。専門は日本思想史、神道論。
著書に「神道の中世——伊勢神宮・吉田神道・中世日本紀」
(中公選書、二〇二〇年) などがある。

門屋 温 (かじや・あつし)

清泉女子大学非常勤講師。専門は日本宗教思想史。
論文に「神道をめぐる幻想の正体」「療法としての歴史
〈知〉」森話社、二〇二〇年) などがある。

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書名	部数
中世神道入門 カミとホトケの織りなす世界 伊藤聡・門屋温〔監修〕 新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也〔編〕	部
定価 4,180 円・(本体価格3,800円) A5判上製・カラー口絵8頁＋本文392頁 ISBN 978-4-585-31006-8 C1014 2022年4月刊行	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

中世神道入門

カミとホトケの織りなす世界

伊藤聡・門屋温〔監修〕
新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也〔編〕

定価 四、一八〇円・本体 三、八〇〇円
A5判上製カバー装・カラー口絵八頁＋本文三九二頁
二〇二二年四月刊行・ISBN978-4-585-31006-8 C1014

〈詳細目次〉

カラー口絵
序言

1 総論

- 1 中世神道とは●中世神道とは○〔通史〕古代から中世へ／〔通史〕中世神話・中世日本紀／〔通史〕中世から近世へ／〔通史〕近世からみた中世
 - 2 神仏習合の諸相●神身離脱○護法善神●本地垂迹説○御霊信仰○神国思想○神観念
 - 3 中世神道流派概説●両部神道○伊勢神道○山王神道○三輪流神道○御流神道○吉田神道と吉田家○浄土系諸派と神道
 - 4 神道伝授のかたち●神道灌頂○神道書の形態
- 【コラム】中世神道と仏教普遍主義

2 中世の神々

- 1 古典神の変貌●国常立尊・天御中主神○天照大神○月読尊○素戔嗚尊○蛭見(恵比寿)○天兒屋命
 - 2 広がる信仰●八幡○春日○住吉○稻荷(荼吉尼天)○三輪○日吉山王○天神○熊野○諏訪○二所(伊豆山・箱根)○三嶋○富士浅間
 - 3 習合神の諸相●牛頭天王○威王権現○清瀧権現○赤山明神・新羅明神○摩多羅神○宇賀弁才天○荒神○童子神○妙見
 - 4 鎌倉仏教の神●三十番神○禪と神々
- 【コラム】中世神道・中世の習合神と芸能 ―金春禪竹『明宿集』を通して

3 中世神話のモチーフ

- 第六天魔王と大日印文○盤生王―陰陽道の神話○天竺からの飛来―漂着○野馬台詩と百王思想○神功皇后説話の変容○藤原氏の神話○呉太后後裔説○家・職・去の神話
- 【コラム】中世宗教における身体性および性の問題

〈監修者・編者プロフィール〉

〔監修者〕

伊藤聡 聡 (いとう さとし) 茨城大学人文社会科学部教授。専門は日本思想史、神道論。

著書に『神道の中世―伊勢神宮・吉田神道・中世日本紀(中公選書、二〇二〇年)などがある。

門屋 温 (かどや あつし) 清泉女子大学非常勤講師。専門は日本宗教思想史。

論文に「神道をめぐる幻想の正体」(『療法としての歴史』知『森話社』二〇二〇年)などがある。

〔編者〕

新井大祐 (あらい だいすけ) 國學院大學教育開発推進機構准教授。専門は中・近世神道思想史、社寺縁起。

著書に『言説・儀礼・参詣―「場」といとなみの神道研究」(共著 弘文堂、二〇一九年)がある。

鈴木英之 (すずき ひでゆき) 北海学園大学人文学部教授。専門は日本思想史。著書に『中世学僧と神道―了譽聖師の学問と思想』(勉誠出版、二〇二二年)がある。

大東敬明 (だいてい たくあき) 國學院大學研究開発推進機構准教授。専門は神道史。著書に『真福寺善本叢刊 第三期 神道篇(4) 中世神道資料集』(阿部泰郎と共編、臨川書店、二〇二〇年)がある。

平沢卓也 (ひらさわ たくや) 立教大学助教。専門は日本思想史。論文に「吉田家と日本書紀―吉田兼俱の神代巻講釈を中心に」(遠藤慶太・河内春人・関根淳・細井浩志編『日本書紀の誕生―編纂と受容の歴史』八木書店、二〇一八年)などがある。

4 中世神道のイメージとイコノロジー

- 1 神器・神宝●三種の神器○十種神宝○御正体
 - 2 神宮をめぐるイコン●心御柱○御形文・千木・堅魚木○屋形文錦・小車文錦
 - 3 神道説と図像●『麗気記』神体図○『両宮本誓理趣摩訶衍』・天照皇大神遷幸時代抄・『日講責本紀』○日本図
 - 4 神道曼荼羅●本地仏曼荼羅／垂迹曼荼羅／本迹曼荼羅○官曼荼羅／参詣曼荼羅
- 【コラム】天河弁才天曼荼羅

5 中世神道をめぐる人々

- 1 重源○貞慶○度会行忠○叔尊・寛乗○度会常昌(常良)○慈遍○文観○度会家行○北畠親房○銀阿○了譽聖阿○吉田兼俱
- 【コラム】偽書・偽経(仮託書)

6 中世神道書の世界

- 1 中世日本紀●古事記・日本書紀・旧事本紀・古語拾遺○日本紀注釈
- 2 両部神道●中臣祓訓解○麗気記○鼻掃書○三輪大明神縁起
- 3 伊勢神道●倭姫命世記○伊勢二所太神宮神名秘書○太神宮参詣記○豊原神風和記
- 4 山王神道●耀天記○山家要略記○溪風拾葉集
- 5 吉田神道●唯一神道名法要集○神道大意
- 6 その他●神道集○諸神本懐集○番神問答記○神皇正統記

【附説】欧米言語による中世神道研究／【附録】中世神道研究のための文献リスト

あとがき／執筆者紹介

ことば・ほとけ・ほとけ・凶像の

交響 法会・儀礼とアーカイヴ

近本謙介【編】

【目次】

カラー口絵

緒言◎近本謙介

第一部 ことばの響き

中世日本の唱導におけるほとけとことば——説経師の宗教テキスト・アーカイヴス◎阿部泰郎
信貴山と中世聖徳太子伝◎猪瀬千尋

河内源氏の供養と鎌倉幕府の成立——安居院流唱導の表白を題材として◎山野龍太郎
アーカイヴとしての『扶桑略記』◎三好俊徳

蒙書『上大人』・『土田山水』と禪師語録における運用について◎任 占鵬
『維摩経』をめぐる法会・文芸・芸能——『春日権現験記絵』を視座として◎近本謙介

第二部 ほとけの響き

浄土寺浄土堂の造形と思想◎富島義幸
宣陽門院の宗教空間におけるほとけとことば

——東寺西院御影堂の中世的発展と貞慶の『舍利講式』をめぐる◎阿部美香
儀礼空間に託された信仰のかたち——高野山大伝法院本堂を中心として◎郭 佳寧
コラム『華嚴経』を見ること、聞くこと、飲み込むこと

——論義における中世僧侶の教理意識とその周辺◎野呂 靖
北条時頼の臨終儀礼再考——俊仍・泉涌寺僧請来の宋代仏教儀礼・作法の視点から◎西谷 功
受の背景◎大谷由香

第三部 凶像の響き

古代・中世仏教儀礼における造形の役割——行儀・凶像・テキスト◎泉 武夫
新出の列女伝図、列士伝図について——楚平伯胤図、聶政図の断片◎黒田 彰
十王信仰初期の変容と唱導◎荒見泰史

神奈川県小田原市総世寺所蔵の十王二使者図について◎橋本遼太
立川流『阿字観』とその伝本

——仁和寺蔵『五智蔵秘抄』の後半部を伝える聖教をめぐる◎海野圭介
文観房弘真が織りなしたテキストの地平

——『御遺告七箇大事』と『三尊合行法』◎ラポー・ガエタン
称名寺素尊本神祇書二結と神道灌頂◎高橋悠介

第四部 アーカイヴとの共鳴

鎮護国家の仏教と列島の景観——仏法・王法相依の儀礼と地域統治◎松尾恒一
民俗社会の信仰と知識——奥三河宗教文献研究の現在◎松山由布子
コラム『男ノ心』は何と同一か——九華山地蔵寺所蔵文献から◎山崎 淳

史料紹介・壬辰請援第一陣の記録——柳夢鼎の燕行録『壬辰赴京日記』◎程 永超
あとがき◎近本謙介

人びとの祈りのかたちを表す法会や儀礼は、ことば・ほとけ・凶像が統合的に機能する空間のうちに執行されてきた。唱導や文芸のことば、仏像彫刻やそれを荘厳する寺院空間、凶像や絵画、さらには宗教空間で執り行われる法会・儀礼の次第や所作、それらを支える教理・教学——諸種の要素の響き合いにより営まれた法会・儀礼の実際を、寺院に伝持されてきたアーカイヴを紐解くことで明らかにする。領域横断的・複合的な議論と方法論を示す四部二十三編の論考が奏でる法会・儀礼学の最新機軸。

定価 二二、一〇〇円(税込)
(本体 二一、〇〇〇円)

B5判上製カバー装
カラー口絵一六頁+本文五二八頁
二〇二二年三月刊行
ISBN978-4-585-31009-9 C3015

【編者紹介】

近本謙介(ちかもと・けんすけ)一九六四年生まれ。名古屋大学人文学研究科教授。専門は中世宗教文芸。著書に『春日権現験記絵注』神戸説話研究会編、和泉書院、二〇〇五年・二〇一四年改訂重版、『天野山金剛寺善本叢刊第一期・第二巻「因縁・教化」(共編著、勉誠出版、二〇一七年)、『玄奘三蔵新たるる玄奘像をもとめて』(共編著、勉誠出版、二〇二一年)、『宗教遺産学の創成』(編著、勉誠出版、二〇二二年)などがある。

書名	部数
ことば・ほとけ・凶像の交響 法会・儀礼とアーカイヴ 近本謙介【編】	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 13,200円(税込)・本体12,000円
B5判・上製カバー装・カラー口絵16頁・本文528頁
2022年3月刊行
ISBN978-4-585-31009-9 C3015

木俣元一／近本謙介……………編

宗教遺産 テキスト学の創成

「祈り」という人類の普遍的・根源的営みのなかで構築された宗教は、それを信仰し担う人々により、多種多様な形をもって大切に守られ、伝えられてきた。

また、一方で、人間と宇宙の根源的な在り方を規定する拠り所であるが故に、

世界認識における解釈の対立を生じ、時には宗教間の軋轢や破壊を呼び起こすきっかけともなった。

「宗教遺産テキスト学」とは、

人類によるあらゆる宗教所産を、多様な「記号」によって織りなされた「テキスト」とみなすことで、

その構造と機能を統合的に解明し、人類知として再定義することを目的とし、

「コト」と「モノ」を一体化する新たな学術領域である。

宗教遺産を人類的な営みとして横断的かつ俯瞰的に捉え、

ひと・モノ・知の往来により生成・伝播・交流・集積を繰り返すその動態を、

精緻なアーカイヴ化により知のプラットフォームを構築することで、多様性と多声性のなかに位置づける。

文理を超えた三篇七章、四十の論考により示される、人類の過去・現在・未来をつなぐ新視点。



【執筆者一覧】

- 第一篇：近本謙介・宮治昭・上枝いづみ・影山悦子・檜山智美・濱田瑞美・森雅秀・大谷由香・荒見泰史・程永超・横内裕人・三好俊徳・富島義幸・本井牧子・児島大輔・猪瀬千尋・山本聡美・鷹野佳世子
- 第二篇：木俣元一・秋山聡・松田陽・高橋沙奈美・栗田秀法・周藤芳幸・水野千依・松井裕美・石原美奈子・伊東未来・出口顯・佐々木重洋
- 第三篇：梶原義実・小田寛貴・河江肖刺・遠藤守・井上隼多・野原裕太・阿部泰郎・三谷真澄・野呂靖・小池淳一・楠淳澄

【目次】

カラー口絵
宗教遺産テキスト学序説

第一篇 生成・動態の解明
—— 源流と伝播のメカニズム

第二部 交流と集積の実態解明
—— 仏教文獻・画像の源流および諸地域への伝播の解明
—— 東アジアにおける祈りの記録と記憶

第三部 日本における宗教美術の形成・伝来・復元

第二篇 多様性・多声性の解明
—— 「文化遺産」と「宗教」の歴史と理論
—— 「宗教遺産テキスト学」の基盤構築に向けて

第五部 宗教実践の多様性と遺産化をめぐる諸問題

第三篇 文理融合による新展開と未来への発信

第六部 文理融合型研究の新展開構築

第七部 宗教遺産先端アーカイヴ構築と発信
まとめと展望
あとがき／執筆者一覧

定価 **16,500**円・(本体価格15,000円)
B5 判上製・カラー口絵 8 頁 + 本文 720 頁
ISBN 978-4-585-31008-2 C3014
2022 年 3 月刊行

☞…詳細目次は裏面をご覧ください。

書名	部数
宗教遺産テキスト学の創成 木俣元一／近本謙介 [編]	定価 16,500 円・(本体価格15,000円) B5 判上製・カラー口絵 8 頁 + 本文 720 頁 ISBN 978-4-585-31008-2 C3014 2022 年 3 月刊行
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

宗教遺産テキスト学の創成

木俣元一／近本謙介〔編〕

定価一六、五〇〇円・本体一五、〇〇〇円
B5判上製カバー装・カラー口絵八頁＋本文七二〇頁
二〇二二年三月刊行・ISBN978-4-585-31008-2 C3014

〈詳細目次〉

カラー口絵

宗教遺産テキスト学序説……………近本謙介

第一篇 生成・動態の解明

第一部 源流と伝播のメカニズム

——仏教文獻・圖像の源流および諸地域への伝播の解明

生き続けるパームヤーン

——大仏破壊の前とその後、現在・未来へ……………宮治 昭

帝釈天と梵天が付き従う釈迦の誕生

——ガンダーラの浮彫に表された「灌漑」と文獻伝承との関係……………上枝いつみ

ウスベキスタン南部フアズスタバ遺跡出土初期仏教壁画について……………影山悦子

西魏時代の敦煌莫高窟に見られる習合的圖像表現について……………濱田瑞美

唐五代敦煌莫高窟の窟本尊と龕内壁画について……………森 雅秀

曼荼羅の分類を問い直す……………森 雅秀

第二部 交流と集積の実態解明——東アジアにおける祈りの記録と記憶

東アジア仏教における二百五十戒の実践

——新出資料と元照撰『撰戒種類図』を通じて……………大谷由香

霓裳羽衣雑感……………荒見泰史

朝鮮から明・清へ報告された柳川一件とその影響……………程 永超

コラム：經典目録からみる中世仏教形成史研究の可能性

——その考察に当たつてのメモ……………横内裕人

中世寺院の蔵書における歴史書の位相

——大須文庫を例として……………三好俊徳

阿弥陀堂を宗教遺産として読む

——無量寿院・鳳凰堂と「観無量寿経」……………富島義幸

夢と託宣の体現する境界性のコスモロジー

——神仏と人の身体論……………近本謙介

コラム：佐羅陀山の地蔵

——『天山寺縁起』の絵をよむ……………本井牧子

第三部 日本における宗教美術の形成・伝来・復元

仏教美術史から宗教遺産学へ

——研究史から見た課題と展望……………児島大輔

八条院の一筆大般若経……………猪瀬千尋

宗教遺産としての仏教説話画

——聖衆来迎寺蔵「六道絵」阿修羅道幅をめぐるイメージとテキスト……………山本聡美

宗教絵画の光学的調査について……………鴈野佳世子

〈編者紹介〉

木俣元一（きまた・もとかず）

名古屋大学文学研究科教授。専門は西洋中世美術史。

著書に『シャルトル大聖堂のステンドグラス』（中央公論美術出版、二〇〇三年）、『ゴシックの視覚宇宙』（名古屋大学出版会、二〇一三年）、『ゴシック新論 排除されたものの考古学』（名古屋大学出版会、二〇二〇年）などがある。

近本謙介（ちかもと・けんすけ）

名古屋大学文学研究科教授。専門は中世宗教文芸。

著書に『春日権現験記絵注』（神戸説話研究会編、和泉書院、二〇〇五年・二〇一四年改訂重版）、『天野山金剛寺善本叢刊』第一期・第二卷「因縁・教化」（共編著、勉誠出版、二〇一七年）、『玄奘三蔵——新たな玄奘像をもとめて』（共編著、勉誠出版、二〇二二年）、『ことばはとけ・圖像の交響——法会・儀礼とアーカイヴ』（編著、勉誠出版、二〇二二年）などがある。

第二篇 多様性・多声性の解明

第四部 「文化遺産」と「宗教」の歴史と理論——「宗教遺産テキスト学」の基盤構築に向けて

聖なるものと遺産に関する覚書

——研究への助走として……………木俣元一

聖なるモノの来し方、行く末

——教会宝物をめぐる……………秋山 聡

コラム：文化遺産研究からみた宗教遺産学……………松田 陽

過去でも、記憶でもなく

——「ミュージアム化とロシアの宗教遺産」……………高橋沙奈美

コラム：西洋近世美術における礼拝価値と博物館……………栗田秀法

近代ギリシアと古代の宗教文化遺産

——サモスのヘライオンをめぐる……………周藤芳幸

天の原型を計測する

——有形・無形宗教遺産としての聖地エルサレムとその複製……………水野千依

キュビズムと聖性

——アルペール・グレイズのキリスト教信仰と失われた宗教壁画……………松井裕美

第五部 宗教実践の多様性と遺産化をめぐる諸問題

聖性の遺産化をめぐる政治力学の理解に向けて

——エチオピアのイスラーム聖者崇拝複合の事例……………石原美奈子

コラム：なぜそこまでして文化財を守るのですか

——トランプクトゥ写本の救出活動の事例から……………伊東未来

ライオン人間、象に変身できた男

——「神秘的融即」のその後……………出口 顕

コラム：宗教遺産としての共飲共食……………佐々木重洋

第三篇 文理融合による新展開と未来への発信

第六部 文理融合型研究の新展開構築

科学技術と人文科学……………梶原義実

加速器質量分析による和紙資料の14C年代測定法

——測定法の原理と古文書・古筆切への適用……………小田寛貴

コラム：エジプトのピラミッド研究における三次元計測……………河江肖刺

情報学に基づく社会発信研究

——行政オープンデータ推進と考古資料デジタル化の地域展開……………遠藤 守

考古資料3Dデータの図化学システムについて……………井上隼多・野原裕太

第七部 宗教遺産先端アーカイヴ構築と発信

宗教遺産学の実践としての宗教文化遺産アーカイヴ構築

——龍谷大学による「宗教テキスト文化遺産アーカイヴ」研究基盤創設のために……………阿部泰郎

コラム：仏教写本研究とデジタルアーカイヴの展望……………三谷真澄

コラム：宗教テキストを体験する

——明恵上人紀州八所遺跡」と明恵の夢想到注目して……………野呂 靖

コラム：歴注の伝承と民俗

——土用から……………小池淳一

宗教遺産としての法相論義文獻……………楠 淳澄

まとめと展望……………木俣元一

あとがき……………木俣元一・近本謙介

執筆者一覧

福州版一切経調査研究会

編

宋版一切経(福州版)調査提要

本源寺蔵の調査を通して

東アジアの仏教伝播、そして、

木版印刷の文化伝播を考える上で、各地に襲蔵される「宋版一切経」は

避けては通ることのできない

重要な文化遺産である。

近年、書誌学的・目録学的研究の進展を見せる

「宋版一切経」の中でも「福州版」について、

実際の調査の中から得られた、

特徴的な装訂・版式、

補刻の様相や印記等に関する知見を提示。

さらには、関連論文、附録を収載した、

初めての「福州版一切経」調査ハンドブック。

【福州版一切経調査研究会(五十音順)】

- 上杉智英 京都国立博物館研究員
- 落合俊典 国際仏教学大学院大学教授
- 高橋悠介 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授
- 中村一紀 三の丸尚蔵館調査補佐員
- 野沢佳美 立正大学文学部教授
- 前島信也 国際仏教学大学院大学日本古写経研究所研究員
- 牧野和夫 実践女子大学名誉教授、国際仏教学大学院大学日本古写経研究所特別研究員
- 南 宏信 佛教大学講師
- 矢口郁子 開成中学・高等学校教諭
- (故) 渡辺信和 元同朋大学仏教文化研究所研究室長

【目次】

はじめに

大蔵経調査の必要性

一 印刷漢文大蔵経の簡紹・説明と福州版大蔵経の問題点

二 福州版大蔵経——「東禪寺版(一切経)」「開元寺版(一切経)」調査——その現場と調査など

三 書物としての宋版一切経——書物各部の名称・版式としての名称など

四 福州版の装訂について

A 調書項目の解説と記入の実例・注意点

B 千字文番号と函取納の順序——調書余白の利用

① 調査年月日と調査者名の記入

② 「帙」表紙——⑤ 寸法と併せて

③ 「外題」

④ 存「完存・欠(前・途中・後)断簡・殆ど損傷」

⑤ 刊・写

⑥ 見返し——共紙・その他

⑦ 印記

⑧ 題記——巻首尾の題記・版心などの施財刊語など

⑨ 内題

⑩ 版心 附、印造記・板数・面数・界高・版心(柱)位置を併せて

⑪ 尾題——刊行(場)列位・(尾題記)

⑫ 印面

⑬ 五 応用篇

A 面数と厚さ——五面一紙混入のことなど——

B 題記・入れ木(埋め木)

C 混合帖など

論考

宋版大蔵経と女性刻工……野沢佳美

書陵部蔵福州版一切経の本文欠落巻について……中村一紀

宋版一切経補刻葉に見える「下州千葉寺了行」の周辺……牧野和夫

附録

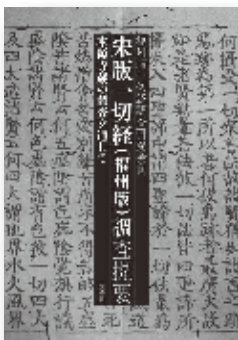
題記一覧——本源寺蔵を軸に——

主要参考文献一覧(福州版一切経関連に限る)

用語索引

あとがき……牧野和夫

執筆者一覧



定価 **7,150**円・(本体価格6,500円)

A5判並製・304頁
ISBN 978-4-585-31010-5 C3015
2022年3月刊行

<p>書名</p> <p>宋版一切経(福州版)調査提要</p> <p>本源寺蔵の調査を通して</p> <p>福州版一切経調査研究会 [編]</p>	<p>部数</p> <p>定価 7,150円(本体価格6,500円)</p> <p>A5判並製・304頁 ISBN 978-4-585-31010-5 C3015 2022年3月刊行</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)</p>	

論究 日本近代語 第2集

日本近代語研究会 [編]

広義の日本近代語における歴史と構造を、
文字、文法、語彙といった
日本語学の観点から詳細に分析した、
日本文学、日本史学、日本語教育学、
表現論などの分野にも資する論文集。

日本近代語研究会

(にほんきんだいごけんきゅうかい)

1982年に「青年近代語研究会」として発足した(1984年1月から「近代語研究会」、2011年5月から現在の名称)、広い意味での近代語(室町時代以降の日本語)に関する研究者の集まり。年十回の研究発表会および『論究日本近代語』刊行の事業を行う。

定価 **16,500** 円(本体価格 15,000 円)

A5判上製カバー装・368頁
ISBN978-4-585-28522-6 C3081
2022年3月刊行

【好評既刊】

論究 日本近代語 第1集

日本近代語研究会 [編]

定価 **16,500** 円(本体価格 15,000 円)

A5判上製カバー装・424頁
ISBN978-4-585-28521-2 C3081
2020年3月刊行

第2集【目次】

キリシタン版『サントスの御作業』の「言葉の和らげ」の編纂背景について
—巻1・巻2間の偏りに注目して— ■中野 遙

用例翻訳の疎密に見るキリシタン日本語文典の性格 ■黒川 茉莉
『虎明本狂言』と『狂言六義』における行為要求表現の対照 ■八坂 尚美
格助詞「ガ」の用法拡大の様相
—17世紀から明治大正期にかけて— ■山田 昌裕

メテとユンデの語誌
—ミギノテ・ヒダリノテ・周辺語との関わりを中心に— ■木川 あづさ

『波留麻和解』に含まれる出現時期の早い訳語 ■櫻井 豪人

外国資料に見える日本語

—『ドゥーフ・ハルマ』の「闖入ル、」について— ■浅野 敏彦

『英和对訳袖珍辞書』における宋朝体の漢字の考察 ■三好 彰

聖書翻訳におけるヘブライ語動詞連鎖の訳出

—「明治元訳」を中心に— ■遠藤 佳那子・高橋 洋成

『佳人之奇遇』の語彙 ■田貝 和子

稿本『言海』にみられる同音異義語の扱い ■小野 春菜

『新式いろは節用辞典』の「漢名」 ■今野 真二

犬養毅の読み方をめぐる『痴遊雑誌』誌上の論争について

—つよし・つよき・キ・たけし・たけき・しのぶ— ■三浦 直人

明治大正期『読売新聞』における「タ」の推移

—文章の種類の違いという観点から— ■ヤロシュ島田 むつみ

近代日本語の省略型行為要求表現の調査 ■陳 慧玲

近代における副詞の仮名表記化 ■高橋 雄太

近代女性書簡文口語体化の契機と過程 ■茗荷 円

〈付帯状況〉を表す「形容詞+まま」の史的展開 ■菊池 そのみ

丁寧体過去形式「～ましたです」の動向

—「国会会議録検索システム」を例として— ■神作 晋一

日本語学習者と母語話者における

補助動詞「てもらう／ていただく」の使用実態 ■木下 謙朗

否定程度副詞の成立

—「1ミリも～ない」を事例として— ■櫛橋 比早子

自動詞・受身・可能・自発

—自動詞的表現のパラダイグマティックな体系— ■志波 彩子

近代語と近世語の境目、近代語と現代語の境目

—漢字政策を軸として— ■小野 正弘

索引／執筆者一覧

編集後記 ■編集委員会

書名	部数
論究 日本近代語 第2集 日本近代語研究会 [編]	定価 16,500 円(本体価格15,000円) A5判上製カバー装・368頁 2022年3月刊行 ISBN978-4-585-28522-6 C3081
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

中根千絵・森田貴之
…………… 編

奈良絵本

『太平記』の世界

永青文庫所蔵『絵入太平記』
全図影印ならびに研究

永青文庫所蔵『絵入太平記』は、軍記物語『太平記』全40巻および「剣巻」1巻の各巻を二冊ずつに分けた全83冊(うち目録1冊)の奈良絵本である。

『太平記』の奈良絵本として最大のものであり、さらには各冊に10枚前後、全体で700枚を超える挿絵点数を誇る。奈良絵本として最多であるのみならず、『太平記』のほとんどの章段について挿絵を持っており、『太平記』享受史においても類をみない規模の絵画資料である。

本書では、これまで未公開であった本書の稠密極彩色の美麗な挿絵の全点をフルカラー影印し公開。研究篇では、『太平記』の格段の梗概および挿絵の解説、主要版本との挿絵の対比を示した表を収載、さらには永青文庫蔵『絵入太平記』の歴史的な位置づけを考察した解題を収めた。

日本文化に多大な影響を与えた『太平記』を考えるための基礎資料。

【目次】

◎影印篇

序言——中根千絵

影印篇凡例

目録凡例

永青文庫所蔵『絵入太平記』影印
巻一〜巻八十・剣巻(上・下)

◎研究篇

『太平記』梗概 附：「絵入太平記」挿絵簡注

解説——森田貴之

『絵入太平記』の挿絵当該章段一覧表

あとがき——森田貴之

挿絵の掲載
全744点を
フルカラー影印!

【編者プロフィール】

中根千絵(なかねちえ)

愛知県立大学教授。博士(文学)。専門は中古・中世文学、説話文学。著書に『いくさの物語と諧謔の文学史』(三弥井書店、二〇一〇年)、『武家の文物と源氏物語絵』(尾張徳川家伝来品を起点として)(共編著、翰林書房、二〇一二年)、論文に『靈巖寺の妙見菩薩——日本の星宿信仰』、『天空の神話学』アジア遊学121(二〇〇九年)などがある。

森田貴之(もりた たかゆき)

南山大学人文学部准教授。専門は軍記文学、和漢比較文学。著書に『日本人と中国故事 変奏する知の世界』(小山順子・葛清行共編、勉誠出版、二〇一七年)、論文に『太平記』の禪学、宋学——遺稿と『空子』と殿周説話と(『軍記物語講座』第三巻、平和の世は来るか、太平記『花鳥社、二〇一九年)などがある。

定価 **55,000**円(本体価格50,000円)

B5判上製
656頁(影印篇392頁・研究篇264頁)
ISBN 978-4-585-39007-7 C3091
2022年3月刊行

書名	部数
奈良絵本『太平記』の世界 永青文庫所蔵『絵入太平記』全図影印ならびに研究 中根千絵・森田貴之 [編]	定価 55,000 円(本体価格50,000円) B5判上製・656頁 ISBN 978-4-585-39007-7 C3091 2022年3月刊行
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	

中国の娯楽とジェンダー

女が変わえる／女が変わる

アジア遊学 267

中国ジェンダー研究会「編」

男装から、

少女レビュー、グラフィ誌まで

二十世紀前半、上海を中心に多彩な娯楽が花開く。この地で女性が舞台やスクリーンに登場し、大衆を魅了する「女性による娯楽」が隆盛した。それは次第に日本や世界へと伝播していく。女性たちはどのように娯楽を変え、

また女性たち自身は娯楽を通してどう変わったのか。映画、ラジオ、有線放送、新聞・雑誌、演劇、ダンス、スポーツ、旅行など様々な娯楽のフィルターを通してその諸相を明らかにする。

ジェンダー論、女性史をはじめ、文学、歴史学、比較文化史、映画史、舞踏史、演劇学、音楽学など多角的視角から、複数言語史料を用いて娯楽を掘り起こし、

中国研究ひいては従来の大衆娯楽研究や盛り場研究の再構築をめざす意欲的な一冊。



【目次】

はじめに——中国の娯楽とジェンダーへの招待……大濱慶子

第一部 ● 発信・享受する娯楽

男装するモダンガール——映画『化身姑娘』シリーズと女性観客……菅原慶乃
女性冒険家とラジオ放送
——上海フランス租界のクロード・リヴィエール……井口淳子

上海租界のフランス語新聞が報じた中国映画とスターたち……趙 怡
『今代婦女』——中国初の女性向けグラフィ誌……江上幸子

つながらぬ女性たち——戦時期『上海婦女』を中心に……須藤瑞代
東北農村の「小喇叭」——有線放送と私的空間の集団化……横山政子

第二部 ● 演じる娯楽

上海の少女レビュー・ビジネスの隆盛と衰退
——（見られる）性と身体表現……星野幸代

上海の白系ロシア人詩人・ダンサー、
ラリーサ・アンデルセンの半生……須佐多恵

姉妹の越劇——姚水娟・袁雪芬・尹桂芳の時代……中山 文
晋劇史上初の「女老生」——丁果仙の形象とその影響……陳 鳳

第三部 ● 体験する娯楽

近代中国における女子スポーツの娯楽化……游 鑑明（天神裕子訳）
女子学生の団体旅行
——占領下北京における日本見学旅行記を中心として……杉本史子

戦後再生される社交ダンス
——労働者の娯楽へ（平等）の身体化の日中比較……大濱慶子

中国農村におけるキリスト教とジェンダー
——「娯楽」と規制のあいだで……石川照子

定価 二、〇八〇円（税込）
本体 一、八〇〇円

A5判並製カバー装・二四〇頁
二〇二二年三月刊行
ISBN978-4-585-32513-0 C1330



【編者紹介】

中国ジェンダー研究会

二〇一六年より主に中国をフィールドとし、ジェンダー研究に関心を持つ大学教員、研究者が集まり関西を中心に活動を行う研究会。現在、中国女性学、ジェンダー研究をはじめ、女性史、文学、歴史学、社会学、比較文化史、比較教育学、演劇学、音楽学、映画史、舞踏史、フランス語、ロシア語などを専門とする研究者が参加し、さまざまな視角から従来にはない新しい研究の開拓に取り組んでいる。



書名	部数
中国の娯楽とジェンダー 女が変わえる／女が変わる 【アジア遊学267】 中国ジェンダー研究会【編】	部
定価 3,080円（税込）・本体2,800円 A5判並製カバー装・240頁 2022年3月刊行 ISBN978-4-585-32513-0 C1330	
ご送付先 ご氏名・ご住所（通信欄）	

島村幸一・小此木敏明・屋良健一郎

著

訳注 琉球文学

『佐銘川大ぬし由来記』

『周蘭両姓記事』『思出草』

『浮縄雅文集』『雨夜物語』

『永峰和文』

さながわおおぬしゆらいき
しゅうりんにゅうせいきし おもいでくさ
うきなわがぶんしゅう あまよものがたり
ながみねわぶん

【目次】

序文
凡例

佐銘川大ぬし由来記

解説／本文／現代語訳／注釈

周蘭両姓記事

解説／本文／現代語訳／注釈

思出草

解説／本文／現代語訳／注釈

浮縄雅文集

解説／本文／現代語訳／注釈

雨夜物語／永峰和文

解説／本文／現代語訳／注釈

参考地図

参考文献一覧

あとがき
和歌初句索引

文化の結節点たる琉球においては、琉球語のみならず漢語・和語による諸種の文学作品が華ひらいた。それらは、琉球という場のもつ広がりを示す貴重な歴史資料でもある。

十八世紀前半期は、琉球王府による歴史資料の編纂事業が集中し、文芸が盛んな時代であった。氏族の歴史叙述が本格的に始まり、正史や地誌の編纂も行われた。

家譜と正史、地誌の叙述により、物語としての歴史が作られていく。

また、それと並行して、御取合(交際・交流)の文学としての和文学も展開した。

本書では、そのような時代に成立した6編の作品を取り上げ、校訂本文に注釈・現代語訳を付し、解説を加える。

琉球をどのように叙述し、どう認識させようとしているのか。
琉球の歴史や地誌をどのような枠組みで描こうとしているのか。
琉球の歴史伝承叙述の意味づけを考える上で重要な作品を読み解く。

【著者プロフィール】

島村幸一(しまむらこういち)

立正大学文学部教授。専門は琉球文学、琉球文化史。

著書に『おもろさうし』と琉球文学(笠間書院、二〇一〇年)、『琉球文学の歴史叙述』(勉誠出版、二〇一七年)、『おもろさうし研究』(角川文化振興財団、二〇一七年)、『琉球船漂着者の『開書世界』』(大島筆記)翻刻と研究(勉誠出版、二〇二〇年)、『首里城を解く』(文化財継承のための礎を築く)(編著、勉誠出版、二〇二二年)などがある。

小此木敏明(おこのぎとしあき)

立正大学古書資料館専門員、立正大学非常勤講師。

専門は中世・近世文学。寄贈本のルーツをたどる『近世駿河から図書館へ(増補改訂版)』(立正大学図書、二〇一九年)、論文に『中山世鑑』における依拠資料『四書大全』(網鑑)『太平記』について(『説話文学研究』47、二〇二二年)、『中山世鑑』の伝本について(内閣文庫本を中心に)(小峯和明監修、目黒将史編『資料学の現在(シリーズ)日本文学の展望を拓く5』(笠間書院、二〇一七年)などがある。

屋良健一郎(やらけんいちろう)

名桜大学国際学群上級准教授。専門は琉球史。

著書に『琉球史科学の船出』(共編、勉誠出版、二〇一七年)、『論文』に『近世琉球の日本文化受容』(清水光明編『近世化論と日本』アジヤ遊学185、勉誠出版、二〇一五年)、『近世における琉球人の日本漂着』(島村幸一編『琉球船漂着者の『開書世界』』(大島筆記)翻刻と研究(勉誠出版、二〇二〇年)などがある。

6作品全点
初の訳注

定価 **12,100**円・(本体価格11,000円)
A5判上製・496頁
ISBN 978-4-585-39009-1 C3095
2022年3月刊行

書名	部数
訳注 琉球文学 『佐銘川大ぬし由来記』『周蘭両姓記事』『思出草』 『浮縄雅文集』『雨夜物語』『永峰和文』 島村幸一 [編]	定価 12,100 円(本体価格11,000円) A5判上製・496頁 ISBN 978-4-585-39009-1 C3095 2022年3月刊行
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

地域文化の可能性

木部暢子 [編]

定価 **2,970** 円 / 本体価格 2,700 円

A5判並製カバー装
224頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-32015-9 C1020
2022年3月刊行

地域の文化を守り、継承し、活用していくために——

現代社会はこれまでに経験したことのないさまざまな問題に直面している。

とりわけ、地域社会の変貌や大規模災害により多様性が急速に失われつつあるなか、

私たちは過去の文化の多様な姿とその蓄積から

何を導き出し、未来の地域社会をどのようなものとして構想すべきか。

身近な地域文化を対象として、そこに生み出され、受け継がれてきた知恵の数々や努力の軌跡に光を当て、

民俗学、文化人類学、言語学、保存科学、歴史学、自然環境学等の諸分野から

地域文化の再評価や復興にアプローチする。

【目次】

はじめに ■小池淳一

第1章 地域を見つめ、つなげる——地域文化資源の「発見」と「活用」 ■小池淳一

第2章 地域資料をめぐるひとびと ■丹羽謙治

第3章 奄美の文化資源 ■桑原季雄

第4章 ことばと地域文化 ■木部暢子

第5章 学生が取り組む地域歴史遺産の保全と活用 ■添田仁

第6章 自然資本を活かした地域の可能性 ■中静透

第7章 災害支援から考える地域文化と博物館 ——地域文化の「再発見」と「保存・活用」—— ■日高真吾

第8章 原子力災害被災地域における民間資料の保存と活用 ■渡辺浩一

執筆者一覧

索引



【編者プロフィール】

木部暢子 (きべのぶこ)

国立国語研究所特任教授。専門は日本語学。研究テーマは日本の方言、音韻・音声、アクセント。

著書に『日本語アクセント入門』(共著、三省堂、2012年)、『そうだったんだ日本語 ジャッとで方言なおもしろか』(岩波書店、2013年)、『方言学入門』(共編著、三省堂、2013年)、論文に「消えゆく言語・方言を守るには」(『國學院雑誌』119-11、2018年)などがある。

書名	部数
地域文化の可能性	部
木部暢子 [編]	
定価 2,970 円 / 本体価格 2,700 円	
A5判・並製カバー装・224頁+カラー口絵16頁	
2022年3月刊行	
ISBN978-4-585-32015-9 C1020	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

日米交流史の中の

福田なををみ

小出いずみ【著】

定価七、七〇〇円(税込)
(本体七、〇〇〇円)

A5判上製カバー装・五三六頁
二〇二二年二月刊行
ISBN978-4-585-30004-5 C1000

「外国研究」と ライブラリアン

図書館がつなく、知られざる日米交流史

第二次大戦前、戦中・戦後の時代を通して活動した、日本研究ライブラリアンの草分け、福田なををみ(一九〇七〜二〇〇七)。

アメリカと日本の両国の多様なライブラリーにおいて仕事をしていたという希有な経歴をもつ彼女の足跡は、自身が記録や資料を手元に残さない人であったことにより、これまで詳細に知られることがなかった。

日米両国での福田の仕事の全貌をつかみ、日米にまたがって所在する資料を博搜、日本の図書館界とアメリカの学界・図書館界との接点をつとめていながら、これまであまり知られていない福田なををみの足跡と役割を明らかにし、さらには、日米交流史の文脈から、ライブラリーという場を磁場とし、異なる文化圏に関する知識を追究する「外国研究」が初発期においてどのように進められ、展開したかを明らかにする。

【著者紹介】

小出いずみ(こいでいずみ)一九五〇年生まれ、一九七八年同志社大学大学院神学研究所修了、一九八〇年ピッツバーグ大学大学院図書館情報学科修了、二〇二〇年東京大学大学院人文社会科学系研究科博士(文学)。専門は図書館学文化資源学。(財)国際文化会館図書室長(企画部長を経て、二〇〇三〜二〇一五年(公財)渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター長を歴任。主な論文に「福田直美とアメリカ図書館研究調査団」(今まこと・高山正也編「現代日本の図書館構想：戦後改革とその展開」勉誠出版、二〇一三年)、「渋沢栄一伝記資料」を紙から解き放つ(平井雄一郎・高田知和編「記憶と記録の中の渋沢栄一」法政大学出版局、二〇一四年)などがある。

【目次】

図表一覧／略号リスト

序章 国際交流とライブラリー

第一節 外国に関する知識／第二節 福田なををみの活動／第三節 図書館情報学用語とアーカイブズ学用語の整理／第四節 本書の構成と概要

第一章 日本の中のアメリカ、アメリカの中の日本

第一節 生い立ちと環境／第二節 高等教育と留学／まとめ

第二章 日米親善から敵国情報へ

第一節 日本での仕事／第二節 アメリカ研究とアメリカに関する情報資源／第三節 戦時中の福田―外務省調査局での勤務／まとめ

第三章 軍政とライブラリー

はじめに／第一節 GHQでの仕事／第二節 GHQとライブラリー／第三節 GHQの図書館政策と福田の関わり／第四節 ミシガン大学からのオフア―／まとめ

第四章 国際交流から日本研究へ

はじめに／第一節 初期の国際文化会館図書室／第二節 アメリカ図書館研究調査団／第三節 日本研究への収斂／まとめ

第五章 アメリカの日本研究とライブラリー

はじめに／第一節 アメリカにおける日本研究環境の変化／第二節 メリ―ランド大学東アジア図書館／第三節 ミシガン大学東アジア図書館／まとめ

終章 外国研究とライブラリアン

第一節 福田なををみと「外国研究」のライブラリー／第二節 研究と情報資源

あとがき

福田なををみ編著作物リスト／福田なををみ略年譜／参考資料・文献／人物註／註／索引

書名	部数
日米交流史の中の福田なををみ 「外国研究」とライブラリアン 小出いずみ【著】	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 7,700円(税込)・本体7,000円
A5判・上製カバー装・536頁
2022年1月刊行
ISBN978-4-585-30004-5 C1000

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

中国道教美術史

漢魏晋南北朝篇

定価 38,500 円
本体価格 35,000 円B5判上製カバー装・552頁
ISBN978-4-585-37001-7 C3071
2022年2月刊行

李松〔著〕／土屋昌明・齋藤龍一〔監訳〕／廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美〔訳〕

道教の美術とはなにか

道教の生成プロセスにまでさかのぼり、春秋戦国時代から漢そして三国時代にいたる、老子の神格化と視覚化の関係を「先道教美術」と位置付け、多くの新出資料を提示し徹底的に検討する。さらに南北朝時代北魏を「道教美術の成立」と定義し、北魏から隋時代にいたる膨大な道教像を時代ごとに整理し網羅的に集成、最新の研究に裏付けされた詳細な解説を付す。文献を中心とした道教研究とは一線を画し、現地調査による道教空間への接近、帛書・銅鏡・画像石・書法・絵画・彫刻など、道教美術研究の第一人者による「モノ」を起点とした総合的な考察の成果を示す。道教美術の全貌をオールカラーによる豊富な図版と共に紹介する大著、待望の邦訳。



【目次】

前言 李松
訳者説明

第一章 先道教美術

はじめに 「先道教美術」について

第一節 楚墓の文物から見た人と鬼神が共存する世界

第二節 漢晋銅鏡：羽人から諸神の出現へ

第三節 漢代の老子図像

第四節 洛陽から陝北へ：地下にあるカラーの天界

春秋戦国～漢代道教美術年表

第二章 引用と相互作用：

南北朝時代から隋時代の道教石刻造像

はじめに 未完成の道教図像に関する設計書
——顧愷之『画雲台山記』

第一節 北魏：長安から耀県へ

第二節 西魏「大統」時代

第三節 北周・北斉：限りある発展

第四節 隋代：天尊の出現

三国～隋代道教美術年表

訳者あとがき
訳者紹介

【著者紹介】

李松（ペンネーム：李淞、りしょう、Li Song）

北京大学芸術学院教授、美術学博士。専門は中国宗教美術史。

著書に『神聖図像 李淞中国美術史文集』（人民出版社、2016年）、『陝西仏教芸術』（文物出版社、2008年）、『遠古至先秦絵画史』（人民美術出版社、2004年）、『長安芸術と宗教文明』（中華書局、2002年）など。編著に『道教美術新論—第一屆道教美術史国際研討会論文集』（山東美術出版社、2008年）などがある。この分野で中国を代表する研究者である。

【訳者紹介】

土屋昌明（つちや・まさあき）

専修大学国際コミュニケーション学部教授。専門は中国文学・思想史。

編著書に『道教の聖地と地方神』（ヴァンサン・ゴースールとの共編、東方書店、2016年）、論文に「女性道士焦真静の巡礼」（日本道教学会『東方宗教』第132号、2020年8月）、「黄泉国と道教の洞天思想」（日本古事記学会『古事記年報』58、2016年3月）などがある。

齋藤龍一（さいとう・りゅういち）

大阪市立美術館主任学芸員。専門は中国仏教・道教美術史。

編著書に『展覧会図録『道教の美術』（読売新聞社、2009年）、論文に「中国南北朝時代における維摩像の展開と地域性—道教像との図像的関連に注目して—」（『仏教芸術』第6号、2021年3月）、「唐時代における石造道教像の研究—老君・天尊像を中心に—」（『國華』第1485号、2019年7月）などがある。

廣瀬直記（ひろせ・なおき）

専修大学経済学部非常勤講師。専門は中国宗教史・思想史。

熊坂聡美（くまさか・さとみ）

成城大学民俗学研究所研究員・成城大学芸学部非常勤講師。

専門は中国仏教美術史。

因幡聡美（いなば・さとみ）

専門は中国仏教美術史。



書名	部数
中国道教美術史 漢魏晋南北朝篇 李松〔著〕／土屋昌明・齋藤龍一〔監訳〕 廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美〔訳〕	部
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

定価 38,500 円（本体価格 35,000 円）

B5判上製カバー装・552頁
2022年2月刊行

ISBN978-4-585-37001-7 C3071

ほんちようもんずいしやう 本朝文粹抄七

後藤昭雄 [著]

日本漢文の粹を集め、平安期の時代思潮や美意識を知る上でも貴重な文献「本朝文粹」。その漢文の世界の深遠へと誘う格好の入門書。第七巻では、慶滋保胤、紀長谷雄による公的な文章、大江匡衡・藤原行成による書状の応酬、そして、源順による書序、大江朝綱の詩序など、全十一作品を収載、さらに作者略伝を付した。

定価 三、五二〇円・本体三、〇〇円
四六判並製カバー装・二一六頁
二〇二二年二月刊行
ISBN978-4-585-39511-9 C0095

【目次】

- 第一章 封事を上らしむる詔(慶滋保胤)——臣下の意見上奏を促す
- 第二章 第三皇子の元服を加ふる祝文(紀長谷雄)——親王の元服祝賀文
- 第三章 宇多法皇の封戸を停めんと請ふ書(紀長谷雄)——上皇から天皇への書状
- 第四章 貞観政要を返納する書状(大江匡衡)——文は人なり
- 第五章 大江匡衡書状への返書(藤原行成)
- 第六章 沙門敬公集の序(源順)——橘在列の詩文集の序
- 第七章 円城寺に遊ぶ詩の序(源英明)——道真の余薫
- 第八章 上州大王邸に「香乱れて花識り難し」を賦す詩の序(大江朝綱)——親王時代の村上天皇
- 第九章 菅丞相の廟に「籬菊残花有り」を賦す詩の序(源相規)——大宰府での詩宴
- 第十章 「紅葉は高窓の雨」を賦す詩の序(橘正道)——説話集へ
- 第十一章 民部大輔を申す奏状(橘直幹)——説話集から絵巻へ

作者略伝／本朝文粹作品表／あとがき／索引

後藤昭雄(ごとう・あきお)

大阪大学名誉教授。主要著書に、『平安朝漢文学論考』(桜楓社、一九八一年。補訂版、勉誠出版、二〇〇五年)、『本朝文粹』(共校注、新日本古典文学大系、岩波書店、一九九二年)、『平安朝漢文学文献の研究』(吉川弘文館、一九九三年)、『日本古代漢文学与中国文学』(日本中国学文萃、中華書局、二〇〇六年)、『大江匡衡』(人物叢書、吉川弘文館、二〇〇六年)、『平安朝漢文学史論考』(勉誠出版、二〇一二年)、『本朝漢詩文資料論』(勉誠出版、二〇一二年)、『平安朝漢詩文の文体と語彙』(勉誠出版、二〇一七年)などがある。

第一期・全五巻好評発売中!

- 第一巻…978-4-585-05367-5 C0095 | 2006年12月刊行
- 第二巻…978-4-585-05407-8 C0095 | 2009年2月刊行
- 第三巻…978-4-585-29221-0 C0095 | 2014年7月刊行
- 第四巻…978-4-585-29222-7 C0095 | 2015年10月刊行
- 第五巻…978-4-585-29223-4 C0095 | 2018年8月刊行

定価 各巻 3,080円(税込)・本体2,800円

第二期・既刊

第六巻…978-4-585-29224-1 C0095 | 2018年8月刊行

定価 3,520円(税込)・本体3,200円

書名	部数	部数
本朝文粹抄 七 定価 3,520円(税込)・本体3,200円 四六判並製カバー装・216頁 / 2022年2月刊行 後藤昭雄 [著] ISBN978-4-585-39511-9 C0095		第六巻… 本朝文粹抄 六 定価 3,520円(税込)・本体3,200円 四六判上製カバー装・216頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-29224-1 C0095
本朝文粹抄 第一期 (一～五巻) セット本体 14,000円	第一巻… 本朝文粹抄 978-4-585-05367-5 C0095 2006年12月 本体 2,800円	第二巻… 本朝文粹抄 二 978-4-585-05407-8 C0095 2009年2月 本体 2,800円
第三巻… 本朝文粹抄 三 978-4-585-29221-0 C0095 2014年7月 本体 2,800円	第四巻… 本朝文粹抄 四 978-4-585-29222-7 C0095 2015年10月 本体 2,800円	第五巻… 本朝文粹抄 五 978-4-585-29223-4 C0095 2018年8月 本体 2,800円

通信欄

書物学 19

BIBLIOLOGY

古今東西の知の宝庫に分け入り、
読書の楽しさを満喫する！

定価 一、九八〇円(税込)
定価 一、八〇〇円(+税)
B5判並製・一二八頁(フルカラー)
二〇二二年二月刊行
ISBN978-4-585-30719-8 C1000

◎特集

紙のレンズから見た古典籍

古典籍や古文書に使用されている紙は、
いったいどのような製法により作られたものなのか。
先人たちは紙にどのような加工や工夫を凝らしてきたのか――。
旧来の書誌学・書物学的検討に加え、
高精度デジタルマイクロスコープや機械学習など、
最先端の技術を組み合わせて、
古典籍の世界を「紙」というレンズから探る！

◎特集もくじ

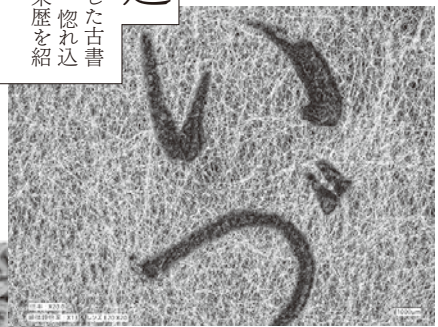
- ◎穀物澱粉添加による紙の改質：江南和幸
- ◎和紙のモルフオロジー解析：澤山茂
- ◎家の学問と写本にみる打紙加工：赤尾栄慶
- ◎源氏物語写本の打紙は何を語るか：横井孝
- ◎明融本源氏物語と打紙：上野英子
- ◎『修紫田舎源氏』の絶板と用紙：佐藤悟
- ◎『大清聖祖仁皇帝實録』の紙質：徐小潔
- ◎打紙再現試料から繊維の形状と表面の粗さを見る：大和あすか・鈴木七美
- ◎紙質観察画像のデータベース構築と自動分類に関する試み：中村覚
- ◎データ駆動型研究とマテリアル分析：山本和明

◎特別寄稿

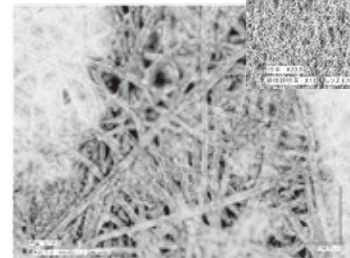
御膳本草の周辺――それぞれの写本：横山學
熱帯季題と風土――台湾の俳句と郷土の創成：井田太郎
西洋古典建築書にみられる東向き図書館：吉川也志保

◎新連載

松朋堂
新収古書解題
二〇二〇年、あらたに開業した古書店「松朋堂」。店主が出会い、惚れ込んだ様々な古典籍の書誌・来歴を紹介する瞳目の新連載！



古典籍に用いられた紙の拡大画像



◎連載

〈新連載〉松朋堂新収古書解題：佐藤道生
書物の声を聞く――書誌学入門：佐々木孝浩
書籍はどう動いたのか――近代書籍流通史料の世界：磯部敦
西洋古書の遠近法：雪嶋宏一

書名	部数
〈書物学 19〉 紙のレンズから見た古典籍 編集部 [編]	定価 1,980円・本体1,800円 B5判並製・128頁(フルカラー) 2022年2月刊行 ISBN978-4-585-30719-8 C1000
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

大日本帝国期の建築物が語る近代史

アジア遊学 266

歴史的建築物は誰のものか？

「負の遺産」とされる傾向にあった大日本帝国期の建築物は、近年、カフェやホテルに変貌し、なかには歴史遺産に認定されたものもある。こうした変化は何を意味しているのか。そもそもなぜ、どのように建てられ、帝国崩壊後はいかなる歴史を歩み、現在はどうのように位置づけられているのか。建築時の状況、植民地支配に果たした役割、保存や破壊をめぐる政治、歴史遺産への認定、現在の活用実態など、植民地建築をめぐる多様な問題を、文化人類学、建築学、観光学、建築史、思想史、メディア学など多角的視点からよみとく。過去の遺物としてではなく、ひとつひとつの価値観や歴史認識を映し出す鏡としてとらえ、旧植民地への理解や今日のアジアと日本の問題を考える手がかりを示す。

【目次】

序言 大日本帝国期の建築物が語る近代史
——過去・現在・未来——上水流久彦

I 大日本帝国期の建築物を俯瞰する
東アジアにおける日本の支配と建築：西澤泰彦
大日本帝国と海外神社の創建：中島三千男
旧植民地の建築物の現在——多元的価値観の表象：上水流久彦

II 大日本帝国に建築物を刻む
帝国が残した国立博物館と戦後の社会
——藤野陽平、バイチャゼ・スヴェトラナ
帝国日本の南北に建設された製糖工場と社宅街：辻原万規彦
開拓と宣教のせめぎ合い
——北海道のキリスト教建築にみる
まなざしのポリティクス：藤野陽平
樺太期の「産業」の遺構は何を伝えるのか：平井健文

III 大日本帝国期の建築物を活用する
「満洲」日本統治期の建造物の今
——満洲映画に映された中国東北地方の建造物を中心に：林 楽青
監獄博物館とノスタルジア
——ダークツーリズムを暗くするもの、明るくするもの：藤野陽平・芳賀恵
紅樓の現在——台湾社会の写し鏡の場としての歴史遺産：上水流久彦
「日本」と「近代」を観光化すること——韓国・九龍浦の事例から：中村八重
帝国医療の想起と忘却——旧南洋群島の病院建築物から：飯高伸五
台湾東部における神のいない「神社」：西村一之

IV 大日本帝国期の建築物を保存する／破壊する
東アジアにおける建築系産業遺産の保存と活用：市原猛志
市庁舎は誰のもの？
——国登録有形文化財・大牟田市庁舎をめぐる事例より：永吉守
沖縄の近代の語られ方——沖縄戦で消えた建築物：上水流久彦
台湾の日式建築を残す人びと——何を想い、いかにたたかっていたのか：渡邊義孝
近代化と戦災の記憶を残す——旧広島陸軍被服支廠をめぐる：高田真

上水流久彦

【編】

(かみづる・ひさひこ) 県立広島大学地域基盤研究機構教授。専門は文化人類学。主な著書に『東アジアで学ぶ文化人類学』(共編著、昭和堂、二〇一七年)、『帝国日本における越境・断絶・残像 人の移動／モノの移動』(共編著、二冊本、風響社、二〇二〇年)などがある。

定価 3,080円(税込)
本体 2,800円
A5判並製カバー装・248頁
ISBN978-4-585-32512-3 C1352
2022年2月刊行

書名	部数
大日本帝国期の建築物が語る近代史 過去・現在・未来 【アジア遊学266】 上水流久彦【編】	部
定価3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・248頁 2022年2月刊行 ISBN978-4-585-32512-3 C1352	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

知って
おきたい

和食の文化



佐藤洋一郎 〔編〕

「和食文化」を学ぶ羅針盤

日本人と外国人にとっての和食はどう違うのか？
江戸時代の人々はどうのどのような料理を食べていたのか？
和食は日本の伝統文化なのか？
そもそも和食って何？

一口に和食と言っても、

その意味するところは、地域や国によって様々である。

本書では、伝統的な日本の食文化を「和食文化」と定義し、
様々な謎や疑問について、歴史や材料など多角的に探り、
文化を守る取り組みも紹介する。

【编者紹介】

佐藤洋一郎 (さとらう、よういちろう)

京都府立大学教授、総合地球環境学研究所名誉教授。専門は植物遺伝学。
主な著書に、『森と田んぼの危機』(朝日新聞社、一九九九年)、『食の人類史』
(中央公論新社、二〇一六年)、共編著に『海の食料資源の科学——持続可
能な発展に向けて』(縮小する日本社会——危機後の新しい豊かさを求め
て)『生命科学と現代社会シリーズ』(勉誠出版、二〇一九年)などがある。



【目次】

カラー口絵

はじめに ● 佐藤洋一郎

和食の空間・和食のいろいろ

① 外から見た和食 ● アイスンウヤル楨林

② 東の和食・西の和食 ● 佐藤洋一郎

〔対談〕「コナモンは和食である」 ● 佐藤洋一郎 × 熊谷真菜

〔コラム〕外国人の見た和食 ● 朝倉敬夫

〔コラム〕関西のパン事情 ● 柿木央久

和食の歴史・和食の変遷

③ 江戸時代から学ぶ「未来の食」 ● 鎌谷かおる・野中朋美

④ 戦後家庭料理の変遷——「社会が変わる・台所が変わる」 ● 奥村彪生

⑤ 和食の地域性と保守性

——コールドチェーンが変えた和食文化 ● 赤嶺 淳

和食の材料

⑥ 和食と魚 ● 石川智士

⑦ 和食は、どのように作られるのか？ ● 佐藤洋一郎・石川智士

⑧ 和食科学分野の研究テーマの見つけ方と進め方 ● 中村孝志

〔コラム〕はりはり鍋は和食文化における健康増進の知恵？

● 中村孝志

和食の思想・宗教・教育

⑨ 和食と宗教 ● 末原達郎

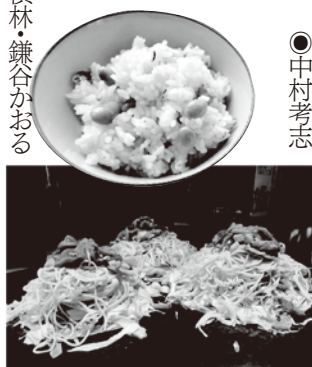
⑩ 和食とサービス ● 平本 毅

⑪ 茄子の花と食育 ● 櫻井 要

⑫ 和食と教養 ● 濱崎加奈子

⑬ 和食の総合政策 ● 新川達郎

おわりに ● 平本毅・アイスンウヤル楨林・鎌谷かおる



定価 二、〇八〇円 (税込)

(本体二、八〇〇円)

四六判・並製カバー装

カラー口絵四頁+本文三九二頁

二〇二二年一月刊行

ISBN978-4-585-33001-1 C0039

部 数

定価 3,080円 (税込)・本体 2,800円

四六判・並製カバー装

カラー口絵4頁+本文392頁

2022年1月刊行

ISBN978-4-585-33001-1 C0039

部

書 名

知っておきたい和食の文化

佐藤洋一郎〔編〕

ご送付先ご住所 (通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX ● 03-5215-9025

宗教芸能としての能楽

アジア遊学 265

高橋悠介 [編]

寺社文化圏や唱導との関わりの中から、多くの作品が生み出されてきた能楽。

能作品には、中世の寺社のあり方や信仰、学問、宗教文化が反映されているが、その宗教的な背景は、未だ充分に明らかにされていない部分が多い。

中世日本の宗教的な知は、どのように能楽に流れ込み、作品世界を形成していったのか。

能作品や能楽論の中の

仏教や神祇に関わる面を掘り下げること、

宗教芸能としての能楽について考えるところにも、

能を通して、室町の宗教文化の一端を明らかにする。

【編者紹介】

高橋悠介 (たかはし ゆうすけ)

慶應義塾大学附属研究所道文庫准教授。専門は日本中世文学・寺院資料研究。主な著書、論文に『禅竹能楽論の世界』(慶應義塾大学出版会、二〇一四年)、『諸社口決』と密教的社参作法の展開』(中世に架ける橋)『森話社』(二〇二〇年)、『身体生成をめぐる思想と中世仏教』(五蔵観・魂魄・胎内説)『日本宗教史3 宗教の融合と分離』(衝突)吉川弘文館(二〇二〇年)などがある。

定価 二,二〇〇円(税込)・本体 三,〇〇〇円
A5判並製カバー装・二八〇頁
二〇二二年一月刊行
ISBN978-4-585-32511-6 C1314

【目次】

序言 ● 高橋悠介

1 能をめぐる宗教的環境／能に描かれる宗教空間

除魔・結界の呪法と芸能——「翁」の成立環境と、その近隣 ● 大東敬明
春日若宮と能楽

——若宮臨時祭、法楽能、祈雨立願能をめぐる ● 天野文雄

謡曲《絵馬》管見——長祿三年伊勢斎宮の旅 ● 芳澤元

能《巻絹》に描かれた熊野の神仏 ● 高橋悠介

2 能作品と仏教説話／唱導／要句

韋駄天説話の源流と変容

——唐宋代の諸伝承と律学受講の場を視点に ● 西谷功

能《安字》の説話的考察——文字を買う話と男装の論理 ● 岩崎雅彦

能《海土》の構想 ● 中野顕正

能《重衡》の表現と思想

——「寒林に骨を打つ霊鬼は」の句をめぐる ● 猪瀬千尋

能における宗教関係語句一斑

——《放下僧・春日龍神・楊貴妃・草子洗・三輪》について ● 落合博志

【コラム】「狂人走れば不狂人も走る」攷——《関寺小町》試注 ● 佐藤嘉惟

3 能楽論・能作品と教説の間

世阿弥と如来蔵——「離見の見」の内包するもの ● 小川豊生

能《芭蕉》の構想と草木成仏説 ● 高尾祐太

《求塚》の墮地獄と論理 ● 中嶋謙昌

【コラム】術婆伽説話の生成と展開

——恋は病か、破戒か、神を招くか ● 平間尚子

4 謡曲注釈学の黎明期

【コラム】「江口本開書」——初期の謡曲注釈書とその伝来 ● 高橋悠介

吉田兼右・兼見の謡曲注釈と『謡抄』

——『謡抄』前史の謡曲注釈と吉田神道 ● 野上潤一

書名	部数
宗教芸能としての能楽 高橋悠介 [編]	部
定価 3,300円(税込)・本体 3,000円 A5判並製カバー装・280頁 2022年1月刊行 ISBN978-4-585-32511-6 C1314	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

コレクションとアーカイヴ

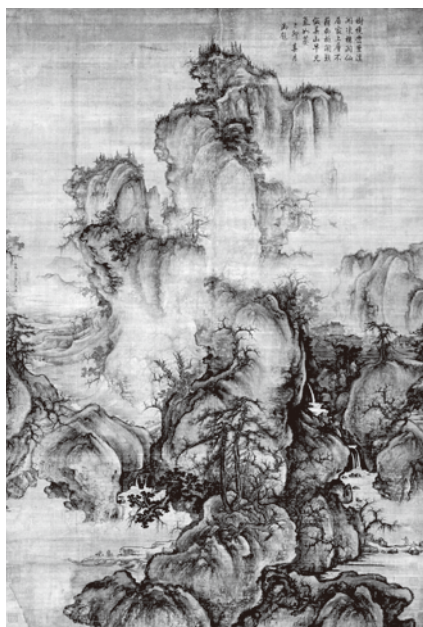
東京大学東洋文化研究所教授
東京大学東洋文化研究所教授
板倉聖哲・塚本麿充〔編〕

東アジア美術作品を体系的に捉えるためには、画像と、所在情報・コレクションの来歴などのアーカイヴ整備による、研究のプラットフォームの構築が不可欠である。その先駆的な営為である『中国絵画総合図録』が半世紀を経て三編の完結を見た。アーカイヴ構築のために先人はどのように考え、行動してきたのか。これからのデジタル・アーカイヴの時代にとのように対応し、展開していくのか。東アジア美術研究を領導する豪華執筆陣による論考を収載、

東アジア美術研究の可能性

定価一〇、四五〇円(税込)
(本体九五〇〇円)
A5判上製カバー装・五二〇頁
二〇二二年一月刊行
ISBN978-4-585-37000-0 C3071

コレクションとアーカイヴの
連環がもたらす
最先端の研究視角を
鮮やかに提示する。



郭熙「早春図」
北宋、熙寧五年(一〇七二)
台北・國立故宮博物院藏

図版掲載点数
250点超!

はじめに「板倉聖哲」

I……東アジア美術研究・過去から未来へ——コレクションとアーカイヴ

- 東洋文化研究所東アジア美術研究室 半世紀の歩み——「中国絵画総合図録」三編完結まで「板倉聖哲」(附・参考資料／歴代教授履歴業績)
- 正倉院宝物と中国の死後世界「キョー・リビット」/呂晨晨 ● 唐絵研究の可能性——半島由来絵画を中心に「井手誠之輔」
- 二十世紀前期の文物調査と中国美術史の発展「石守謙」

II……東アジア美術研究の現在

- 受戒と仏像「眞岡龍作」● 唐宋画牛考「竹浪 遠」● 宋帝后画像について——東アジア中世の帝王画像における宗教性と世俗性「陳韻如」
- 後堀河院の絵巻制作と蓮華王院宝蔵「増記隆介」● 浄土五祖像の成立をめぐる「朝貫 浩」● 惟肖得嚴贊李白觀瀑図試論——馬遠派觀瀑図の受容「教仁 櫻秀明」
- 洞天福地への旅——明代蘇州における旅行絵画の一面「福松 瑞希」● 東アジア絵画史の視点から考える花鳥画研究——呂紀と沈銓・南蘋派を例に「黄立芸」
- アーカイヴとしての狩野派模本「田沢 裕賢」● 中国近代と仏教絵画——金石から人物表現、アジア認識へ「塚本 麿充」
- 「旧王孫」が紡いだ詩画の縁——溥儒と須磨弥吉郎、そして伊藤紫虹の「合作」について「呉孟晋」

● おわりに「塚本 麿充」● 執筆者一覧

東亞美術研究の可能性——收藏與圖像檔案庫 中文摘要

書名	部数
コレクションとアーカイヴ——東アジア美術研究の可能性 板倉聖哲・塚本麿充〔編〕	部
定価10,450円・本体9500円 A5判上製カバー装・520頁 2022年1月刊行 ISBN978-4-585-37000-0 C3071	
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

飛鳥井家歌学の形成と展開

日高愛子【著】

歌と蹴鞠、その両道を家業とし、公武、さらには中央と地方を結ぶネットワークを構築、歌壇の中心で歌学を継承し、近代までその伝統を繋ぎとめようとした歌道家、飛鳥井家。彼らが歌道家として生きた室町期から明治維新时期において、歌学はいかなる意味を有していたのか。また、歌道家はいかにして時代や社会を生きぬいていったのか。飛鳥井家の系譜を紐解くことで、歌を守り、伝えていく思想と精神の展開を明らかにする画期的著作。

【著者紹介】

日高愛子(ひたか・あいこ)

一九八〇年生まれ。熊本大学文学部文学科卒業、九州大学大学院人文科学府博士後期課程単位取得満期退学。博士(文学)。現在、熊本大学大学院人文社会科学部准教授。専門は和歌文学。論文に、「実隆五十首の成立と道堅」『和歌文学研究』二〇一〇、二〇一五年、「飛鳥井雅康の定数歌とその晩年」『西日本国語国文学』二、二〇一五年)などがある。

【目次】

論考篇

はじめに

第一章 飛鳥井流秘伝の形成

第一節 雅俊の歌道伝授と秘伝／第二節 雅康の「飛鳥井流切紙口伝」

第二章 「古今栄雅抄」再編をめぐる問題

第一節 一条兼良の言説と良鎮

第二節 「歌林良材集」「伊勢物語愚見抄」の引用

第三章 「蓮心院殿説古今集注」諸本の性格

第一節 「僻案抄」と兼良説の追補／第二節 為和本の改変

第四章 雅康の定数歌にみる嫡庶の問題

第一節 晩年の定数歌／第二節 歌・蹴鞠道を詠む

第五章 近世前期における歌学の継承と相伝

第一節 雅章と後水尾院周辺／第二節 雅豊の作法書にみる歌学継承

第六章 近世前期における地方歌壇との関わり

第一節 雅章と鍋島直能／第二節 「飛鳥井雅俊卿五十首」の伝来

第七章 近世後期の堂上派地方歌壇の展開

第一節 垂水島津家の歌壇活動／第二節 雅光と伊集院兼愷

第八章 幕末期の古今伝受

第一節 雅典の伝受記録にみる切紙四通／第二節 御所伝受の終焉

おわりに

資料篇

凡例

京都府立京都学・歴史館蔵「古今集注」(貴一四五三)

徳島県立図書館山口文庫蔵「古今和歌集伝授」

(九一・二三アスー山口文庫)

宮内庁書陵部図書寮文庫蔵「飛鳥井雅親卿口伝」(四五二一一「片玉集」所収)

国立公文書館内閣文庫蔵「飛鳥井家懐紙之法」(一九八二〇三)

宮内庁書陵部図書寮文庫蔵「和歌樵談」(鷹一二四一)

初出一覧

索引

定価 11,100円(税込)
(本体 11,000円)

A5判上製カバー装・五二八頁
二〇二二年一月刊行
ISBN978-4-585-39006-0 C3095

書名	部数
飛鳥井家歌学の形成と展開 日高愛子【著】	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 12,100円(税込)・本体11,000円
A5判・上製カバー装・528頁
2022年1月刊行
ISBN978-4-585-39006-0 C3095

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

日本古文書学会編集

古文書研究

第92号

2021年12月

定価	4,180	円(税込)・本体3,800円
B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁		
ISBN978-4-585-32402-7 C3321		
2021年12月刊行		

歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。
その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

目次

カラー口絵

論文

室町幕府奉行人飯尾氏の基礎的研究——南北朝期を中心に——	田中 誠
南北朝期宗氏による対馬支配と少弐氏	松尾大輝
戦国期守護職をめぐる尼子氏と京極氏	西島太郎
近世琉球の生子証文——様式変化とその歴史的背景——	伊集守道
研究ノート 『看聞日記』の引用表現について	村井章介

史料紹介

宮内庁書陵部所蔵「千栗八幡宮造営一件文書」の基礎的考察 ——千栗宮造営をめぐる鎌倉幕府と国衙・大宰府・朝廷の動向——	渡邊 俊
---	------

随筆

古文書の原本を見ることの意味	今岡典和
「堅田文書」に遺る秀吉関係書状二通	村井祐樹

研究余滴 日本の中世文書料紙覚書	高島晶彦
------------------	------

書評と紹介

小島道裕・田中大喜・荒木和憲編／国立歴史民俗博物館監修『古文書の様式と国際比較』	渡辺 滋
前田雅之編『画期としての室町——政事・宗教・古典学』	橋本 雄
谷口雄太著『中世足利氏の血統と権威』	水野 嶺
馬部隆弘著『戦国期細川権力の研究』	木下昌規
久野雅司著『織田信長政権の権力構造』	山田康弘
中野目徹編『官僚制の思想史——近代日本社会の断面』	松谷昇蔵
服部龍二『外交を記録し、公開する——なぜ公文書管理が重要なのか』	古結諒子
加藤諭著『大学アーカイブズの成立と展開』	奥平 晋

令和三年度新指定文化財紹介

彙報

口絵解説 石田三成 坂田郡多和田村十三ヶ状掟書 一面	太田浩司
----------------------------	------

英文レジュメ

書名	部数
古文書研究 第92号 日本古文書学会 [編]	部
定価4,180円(税込)・本体3,800円 B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁 2021年12月刊行 ISBN978-4-585-32402-7 C3321	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

聖徳太子信仰とは何か

榊原史子〔著〕

日本文化に多大な影響を与えた

信仰の全貌をわかりやすく解説！

聖徳太子に帰依し、礼拝し、供養する信仰

——聖徳太子信仰。

太子への思いは絵画や彫像に表現され、

太子の威徳が記された伝記も数多く書かれてきた。

また、その信仰は今に受け継がれ、法隆寺や四天王寺など

太子が建立したとされる寺院が各地に存在し、

大工・左官・鍛冶などの職人たちによる

聖徳太子像参拝(太子講)が行われている。

史資料をひもとき、信仰の発生と発展、伝説・伝承、

関連人物、文学・美術作品などを解説。

あわせてゆかりの寺院・神社、史跡を紹介する。

聖徳太子没後二四〇〇年御遠忌記念出版。



定価4,180円(税込)・本体3,800円

四六判・上製カバー装・288頁

2021年12月刊行

ISBN978-4-585-31007-5 C1014

【目次】

はじめに

第一章 聖徳太子信仰の成立

一 聖徳太子の事績◎二 聖徳太子の伝説

三 聖徳太子についての研究◎四 「聖徳太子」の誕生

五 聖徳太子伝と信仰の発生◎六 聖から救世観音菩薩へ

第二章 聖徳太子信仰の霊場

一 法隆寺◎二 四天王寺

第三章 法隆寺と四天王寺の対抗意識

——聖徳太子信仰の中心地をめぐる

一 「四節文」と「四天王寺縁起」

二 原行本「聖徳太子伝暦」と「四節文」

三 法隆寺の整備事業と「聖徳太子未来記」の出現、
そして「天王寺秘決」と「太子伝古今目録抄」

第四章 霊場の増加

一 聖徳太子が創建したとされる寺院

二 聖徳太子に関係する神社、仏堂

第五章 太子への思い

一 初期の信仰◎二 平安時代の学者と貴族◎三 秦氏、惟宗氏

四 四天王寺の参拝者たち◎五 鎌倉時代の武家

六 僧侶たちの聖徳太子信仰

第六章 平安時代の文学作品における聖徳太子

——女性と聖徳太子信仰

一 「三宝絵」◎二 「源氏物語」

第七章 聖徳太子信仰の美術

一 聖徳太子絵伝◎二 聖徳太子像

第八章 太子講

一 太子講とは◎二 太子講の事例

三 大工さんの日

第九章 文化の創始者聖徳太子

一 建築技術◎二 華道◎三 製紙技術

四 香◎五 伎楽

おわりに／参考文献



書名	部数
聖徳太子信仰とは何か	
榊原史子〔著〕	
定価4,180円(税込)・本体3,800円	
四六判・上製カバー装・288頁	
2021年12月刊行	
ISBN978-4-585-31007-5 C1014	部

ご送付先ご住所(通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

中国史書入門

現代語訳 北齊書

〔監修〕 氣賀澤保規 〔明治大学東アジア石刻文物研究所所長〕

池田恭哉 〔京都大学文学研究科准教授〕

岡部毅史 〔大阪市立大学学術情報課職員〕

〔訳者〕 梶山智史 〔明治大学・専修大学兼任講師〕

倉本尚徳 〔京都大学人文科学研究所准教授〕

田熊敬之 〔東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程〕

二十四史と呼ばれる中国歴代王朝史（正史）を、現代語訳で読む「中国史書入門」シリーズ。

異民族が中原に進出し、

群雄割拠した魏晋南北朝時代。

有名な蘭陵王・高長恭が活躍した

北齊の正史『北齊書』を現代語で読む。

本書の特色

◆原文と現代語訳が対照できる。

◆皇帝の本紀を全篇訳出。各列伝の抄訳。

◆『北齊書』や「東魏・北齊」を理解する

コラム、地図や事表、系図などの資料

を収録。

目次

はじめに

第一部 帝室の軌跡

第一章 帝紀

神武帝(上)、文襄帝、文宣帝、廢帝、孝昭帝、武成帝、後主、幼主

第二章 後宮伝

神武皇后、文襄元后、文宣李后、孝昭元后、武成胡后、後主斛律后、胡后、穆后

第三章 諸王侯伝

高祖十一王、文襄六王

第二部 人臣の列伝

第四章 群臣伝——東魏・北齊の勲貴たち

竇泰、尉景、婁昭(兄子婁叡、庾狄干(子庾狄士文、韓軌、潘樂、段榮(子段韶、段孝言)、斛律金(子斛律光、斛律羨)、孫騰、高隆之、司馬子如、賀拔允、蔡儁、韓賢、尉長命、王懷、劉貴、

任延敬、莫多婁賈文、高市貴、薛孤延、張瓊(子張忻、張遵業)、斛律光(子斛律光舉(子斛律光舉、劉世清)、

堯雄(弟堯鸞、從父兄堯儉)、慕容紹宗、慕容儼

第五章 群臣伝——神武帝・文襄帝・文宣帝の謀臣・武將たち

高乾(弟高慎、高昂、高季式、封隆之(子封子繪、從子封孝琬、封孝琰)、

李元忠(子李孫、族弟李密、宗人李暉、族叔李景遷、盧文偉(子盧恭道、孫盧詢祖、族人盧勇)、

李義深(子李駒、孫李正邁)、魏蘭根、崔俊(子崔瞻、族叔崔景鳳、族人崔肇、孫肇、

陳元康(子陳善、弟陳慙)、杜弼

第六章 群臣伝——東魏・北齊の文武百官たち

敬顯儁、破六韓常、元孝友、李渾(子李湛、弟李贍、族子李公遜、崔暹、高德政、崔昂、王昕(弟王暉)、

陸法和、王琳、徐之才(子徐林、徐同卿、徐之範)、楊愔(子楊愔、宋欽道、鄭頤)、裴讓之(弟裴讓之、裴讓之、

邢邵、魏收、辛術、元文遙、趙彥深、崔季舒、祖珽、尉瑾、唐邕、白建、暴顯、皮景和、暴連猛、

元景安、獨孤水業、陽斐、盧潛、崔劼、盧叔武、陽休之、袁聿修、李稚廉、封述、源彪

第七章 學術伝

儒林伝序、顔之推

第八章 外戚伝・方伎伝・恩倖伝

外戚序、婁叡、胡長仁(從祖兄胡長晏)、方伎序、由吾道榮、信都芳、宋景業、許遵、吳遵世、趙輔和、

皇甫玉、解法選、魏寧、秦母懷文、張子信、馬嗣明、恩倖序、郭秀、和士開、穆提婆、高阿那肱、

韓鳳、韓寶業、盧勒又、齊紹

コラム

『北齊書』編纂 ●「鄴城・晋陽」兩都制 ●北齊蘭陵王 ●文林館、『修文殿御覽』

侯景の乱 ●北齊仏教 ●西域胡人 ●北齊・北周の關係

資料編(北齊版図、事表、系図ほか)

おわりに

本体 六、〇〇〇円(+税)

A5判並製カバー装・約六五〇頁

二〇二一年夏刊行

ISBN978-4-585-29612-6 C0398

書名	中国史書入門 現代語訳 北齊書	部数	部
価格	本体6,000円(+税)		
	A5判並製カバー装・約650頁		
	2021年夏刊行		
	ISBN978-4-585-29612-6 C0398		
ご送付先ご住所(通信欄)			

都市からひもとく 西アジア

歴史・社会・文化

アジア遊学 264

守川知子 [編]

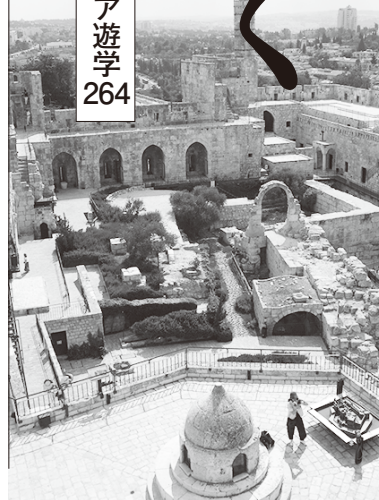
人の営みが映し出す歴史像

西アジアは古くから都市文明や都市国家の栄えた地域である。この地につくられた都市は、市壁を備え、その内側にモスクや市場、居住区、城塞や宮殿を築くという特徴をもつ。各都市は、周辺の農村や街道など複数のネットワークのなかに位置し、地域社会のなめとして機能した。遠距離交易の拠点でもある都市は、イスラーム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒のほか、ヨーロッパやインドやアフリカからの旅人や商人など多様な人々が暮らしていた。東はアフリカから西はエジプトまで、学術都市、商業都市、観光都市、軍営都市、要塞都市、港湾都市など、様々な顔をもつ19世紀の西アジアの歴史都市に焦点をあてる。文献史料・絵図・地図の読み解きから都市社会を多角的に検証し、今に受け継がれるその歴史と文化を探る。都市社会の多様性を描き出し、新たな歴史像を提示する。



【目次】

- 「まえがき」都市からひもとく西アジア」に寄せて ● 守川知子
- I 都市をつくる——建設・形成と発展**
 - ムスリムがはじめて建設した都市バスマ
 - 軍営都市から経済と学術の都市へ ● 亀谷学
 - 「二つの春の母」モスルの一二、二三世紀
 - ザンギー朝下の建設と破壊 ● 柳谷あゆみ
 - スルタンとシヤールの新たなギャンジャ ● 塩野崎信也
 - 「コラム・西アジアの港市①」港市マスカトとポルトガル人
 - 絵図に見る一六一七世紀の植民都市 ● 大矢純
- II 都市に生きる——人びとと都市社会**
 - アレップが「シヤ派の街」であった頃 ● 谷口淳一
 - ティムール朝期のヘラートにおける聖者たち ● 杉山雅樹
 - 境界上の都市アインタール——「良き泉」の町 ● 中町信孝
 - 「コラム・西アジアの港市②」船乗りたちが集う町アデン ● 栗山保之
- III 都市を活かす——政治的・経済的機能**
 - フランク人支配下の都市エルサレム
 - 観光産業都市への発展 ● 櫻井康人
 - 山城から平城へ
 - 近世クルディスタンにおける都市機能の変容 ● 山口昭彦
 - スナナ派の牙城ブハラ ● 木村 暁
 - 「コラム・西アジアの港市③」民族の交差点「ハイファ
 - 近代東地中海の国際港湾都市 ● 田中雅人
- IV 大都市を彩る——三都物語**
 - イスファハーンは世界の半分? ● 守川知子
 - ナポレオン地図から読み解くカイロ
 - マイノリティに注目して ● 深見奈緒子
 - ノスタルジックな近代
 - 一九世紀イスタンブールの都市空間と都市行政 ● 川本智史



【編者紹介】
守川知子 (もりかわ ともこ)
 東京大学大学院人文社会系研究科准教授。専門は西アジア史。主な著書に『シヤ派聖地参詣の研究』(京都大学学術出版会、二〇〇七年)、『編著』『移動と交流の近世アジア史』(北海道大学出版会、二〇一六年)などがある。

定価 三,〇八〇円(税込)・本体二,八〇〇円
 A5判並製カバー装・本文二七二頁
 二〇二一年十二月刊行
 ISBN978-4-585-32510-9 C1322

書名	部数
都市からひもとく西アジア 【アジア遊学264】 歴史・社会・文化 守川知子 [編]	定価 3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・272頁 2021年12月刊行 ISBN978-4-585-32510-9 C1322
ご送付先ご住所 (通信欄)	

玄奘三蔵



定価 二二,二〇〇円(税込)
(本体二二,〇〇〇円)
A5判上製カバー装・五二二頁
二〇二二年十二月刊行
ISBN978-4-585-31005-1 C3015

新たななる玄奘像をもとめて

佐久間秀範・近本謙介・本井牧子【編】

七世紀、遠くインドへ旅に赴き、多数の仏典・仏像を将来、
仏典の漢訳により東アジアにおける仏教の基盤を作り上げた仏者、
玄奘三蔵。

その求法の道行はいかなるものであったのか。
そして、その思想はどのように形成され、伝えられていったのか。
言説・絵画作品などで玄奘はどのように語られ、描かれているのか。
実像と伝承上の姿を対照することで浮かび上がる、
新たな玄奘像とはどのようなものなのか。

仏教学・文学・美術など多角的な視点から玄奘の、
そして、玄奘にまつわる思想・言説・図像を読み解く画期的論集。

【編者紹介】

佐久間秀範(さくま・ひでのり)

筑波大学名誉教授。専門はインド瑜伽行唯識思想。著書『Die Āśvayāriti-Theorie in der Yogācārahūmi, Teil I-II, Alt- und Neu-Indische Studien, Bd. 40, herausgegeben vom Institut für Kultur und Geschichte Indiens und Tibets an der Universität Hamburg, Stuttgart: Franz Steiner Verlag, 1990.10, Teil I: 178 Seiten, Teil II: 243 Seitenなどがある。

近本謙介(ちかもと・けんすけ)

名古屋大学文学研究科教授。専門は中世宗教文芸。主な編著書に『天野山金剛寺善本叢刊』第一期・第二巻『因縁・教化』(共編著、勉誠出版、二〇一七年)、『春日権現験記絵注』(神戸説話研究会編、和泉書院、二〇〇五年・二〇一四年改訂重版)などがある。

本井牧子(もとぎ・まきこ)

京都府立大学文学部教授。専門は日本文学(宗教文芸)。著書に『金蔵論本文と研究』(宮井里佳共編著、臨川書店、二〇一一年)、論文に『釈迦堂縁起』とその結構』(『國語國文』86-5, 二〇一七年五月)などがある。

【目次】

序言 ● 佐久間秀範・近本謙介

第一部 玄奘の足跡と思想

- 第一章 『西域記』慈恩伝読後 ● 桑山正進
- 第二章 旅する玄奘の思想的変遷 ● 佐久間秀範
- 第三章 玄奘の求法と伝法——唯識思想を中心に ● 吉村誠
- 第四章 玄奘系唯識宗の異派——円測思想考 ● 橘川智昭
- 第五章 玄奘が学んだ仏教知識論(因明) ● 師茂樹
- 第六章 玄奘門弟道昭和尚に関する
文献上の一考察 ● ステフェン・デル
- 第七章 日本における玄奘の門下生に見る修行道
——道昭と行基 ● 蓑輪顕量

第二部 玄奘をめぐる言説・図像

- 第一章 玄奘訳『般若心経』の特徴
——中世の神祇信仰を糸口として ● 阿部龍一
- 第二章 玄奘の仏像請来の事績二件 ● 肥田路美
- 第三章 敦煌文献から見た玄奘三蔵 ● 荒見泰史
- 第四章 日本密教文献にみる『深沙神王記』論考 ● 李銘敬
- 第五章 慈恩大師基をめぐる唱導
——東大寺図書館蔵『如意鈔』を中心に ● 本井牧子
- 第六章 『玄奘三蔵絵』と中世南都の仏教世界観 ● 谷口耕生
- 第七章 『玄奘三蔵絵』の成立
——詞書筆者資料を基点として ● 落合博志
- 第八章 聖なる絵巻をつくる
——『玄奘三蔵絵』における絵と詞 ● レイチエル・サンダーズ
- 第一章 『玄奘三蔵絵』の構造と構想
——興福寺における宗の論理と
『春日権現験記絵』との相関 ● 近本謙介

編集後記 ● 本井牧子

<p>書名</p> <h2>玄奘三蔵 新たななる玄奘像をもとめて</h2> <p>佐久間秀範・近本謙介・本井牧子【編】</p> <p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	<p>部数</p> <p>定価 13,200円(税込)・本体12,000円 A5判・上製カバー装・512頁 2021年12月刊行 ISBN978-4-585-31005-1 C3015</p> <p>部</p>
---	---

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX ● 03-5215-9025

合戦図

kassen-zu

中根千絵・薄田大輔(編)

描かれた武もののぶ

勉誠出版

『合戦図』を知るための基礎資料をフルカラーで集成！
最先端の研究成果を具備した図書館必備の決定版！

戦乱の世を生きた人々の武威を示し、また戦いの記憶を後世に伝える合戦図。国宝・貴重書・在外書を含む基礎資料三十八作品をフルカラーで集成。絵巻・扇面・絵入り版本・奈良絵本・屏風など様々な形で展開したこれらの構図やモチーフの変遷を一覧する。美術・文学・歴史などの観点を踏まえた十二本の論考を収載。

図録編収録合戦図(フルカラー掲載)

- ◆平治物語絵巻 三条殿夜討巻 ポストン美術館蔵 ◆国宝 平治物語絵巻六波羅行幸巻 東京国立博物館蔵
- ◆重要文化財 前九年合戦絵巻 国立歴史民俗博物館蔵 ◆国宝 蒙古襲来絵巻 三の丸尚蔵館蔵
- ◆重要文化財 後三年合戦絵巻 東京国立博物館蔵 ◆重要文化財 結城合戦絵巻 国立歴史民俗博物館蔵
- ◆平家物語絵巻 林原美術館蔵 ◆太平記絵巻 埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵 ◆奈良絵本源平盛衰記 海の見える杜美術館蔵
- ◆平家物語扇面 徳川美術館蔵 ◆平家物語・平治物語扇面画帖 立教大学図書館蔵
- ◆保元平治物語絵巻 阿テノン美術館蔵 ◆堀川夜討絵巻 東京国立博物館蔵 ◆堀川夜討絵巻 神奈川県立歴史博物館蔵
- ◆重要文化財 東照社縁起絵巻 日光東照宮蔵 ◆関ヶ原合戦図絵巻 大東急記念文庫蔵 ◆関ヶ原合戦図絵巻 奈良県立美術館蔵
- ◆安徳天皇縁起絵巻 赤間神宮蔵 ◆一の谷合戦図屏風 智積院蔵 ◆保元平治合戦図屏風 ネットロポリタン美術館蔵
- ◆高館物語語図屏風 大英博物館蔵 ◆保元合戦図屏風 岡山県立美術館蔵 ◆一の谷・屋島合戦図屏風 今治市河野美術館蔵
- ◆一の谷合戦図屏風 埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵 ◆一の谷合戦・二度之懸図屏風 静岡県立美術館蔵
- ◆太平記図屏風 ライオン国立民族学博物館蔵 ◆重要文化財 関ヶ原合戦図屏風 大阪歴史博物館蔵
- ◆重要文化財 大坂夏の陣図屏風 大阪城天守閣蔵 ◆長篠合戦図屏風 名古屋市博物館蔵 ◆賤ヶ岳合戦図屏風 大阪城天守閣蔵
- ◆川中島合戦図屏風 和歌山県立博物館蔵 ◆長篠合戦図屏風 犬山城白帝文庫蔵
- ◆長篠長久手合戦図屏風 徳川美術館蔵 ◆小牧長久手合戦図屏風 名古屋博物館蔵
- ◆長篠・長久手合戦図屏風 下絵 東京国立博物館蔵 ◆山崎合戦図屏風 大阪城天守閣蔵
- ◆関ヶ原合戦図屏風 岐阜市歴史博物館蔵

論考編論文執筆者

- ◆薄田大輔 ◆出口久徳 ◆龍澤 彩 ◆小助川元太 ◆鈴木 彰 ◆滝澤みか
- ◆森田貴之 ◆井上泰至 ◆小口康仁 ◆松浦由起 ◆湯浅佳子 ◆竹内洪介

編者紹介

●中根千絵(なかねちほ) 愛知県立大学教授、博士(文学)。
●薄田大輔(うすだだいすけ) 徳川美術館学芸員、専門は日本近世絵画。



定価一七、六〇〇円(税込)
(本体一六、〇〇〇円)

B5判上製カバー装・八九六頁
二〇二二年六月刊行
ISBN978-4-585-30002-1 C3000

書名	部数
合戦図 描かれた武 <small>もののぶ</small> 中根千絵・薄田大輔(編)	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 17,600円・本体16,000円
B5判上製カバー装・416頁
2021年12月刊行
ISBN978-4-585-32013-5 C3021

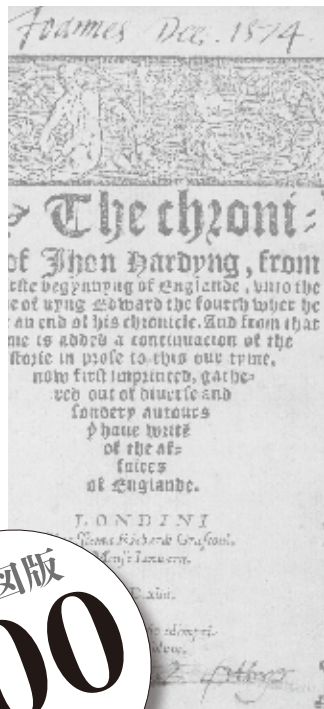
勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

書物に魅せられた 奇人たち 英国愛書家列伝

高宮利行 著



掲載図版
100
点以上!

古来、人びとの隣にはつねに「書物」があった。

その魅惑的なモノは、時に人びとの蒐集欲を掻き立て、さまざまな人間ドラマを描きだした。

蔵書票や蔵書印、書き入れは書物に残された人びとの欲望の痕跡である。

ことに書物文化が早くから花開いたイギリスにおいては、

書物に魅せられた先人たちの驚くべきエピソードに事欠くことがない。

数々の人びとの手を経て残された貴重な書物の写真をふんだんに掲載、

人と書物のひとかたならぬ愛の物語とともに読み解く出版文化史。

目次

はじめに

- ①女王陛下の魔術師、ジョン・ディー旧蔵のハーディング『年代記』
- ②古英語学者のパイオニア、ローレンス・ノウェル
- ③好古家でケンブリッジ大学への篤志家ロバート・ヘア
- ④忘れ去られた収集家ジョン・モリス
- ⑤国王を立腹させた学者ピーター・ヘイリンの場合
- ⑥先祖の家紋を精査した好古家ウォルター・チェトウィンド
- ⑦愛する母校から追放されたトマス・ベイカー
- ⑧リーズの名士ラルフ・ソアズビー
- ⑨モーリス・ジョンソンのスポールディング紳士協会
- ⑩「正直者トム」・マーティンの正体
- ⑪遅咲きの好古家ジョージ・バラード
- ⑫コレッジの学長を驚かせた若者ジョン・ラヴデイ
- ⑬ケンブリッジ大学副総長でシェイクスピア学者だったリチャード・ファーマー
- ⑭折丁記号Bの前にPを——フィリップ・プリスの場合
- ⑮書物史のジギルとハイド——ジェームズ・オーチャード・ハリウェル
- ⑯二兎を追って二兎を得たジェフリー・ケインズ卿
- ⑰フローレンスとチャーリー・チャップリンの知られざる過去
- ⑱書籍商兼書誌学者グレアム・ポラード
- ⑲ケンブリッジで愛された書誌学者で怪奇小説作家A. N. L. マンビー
- ⑳愛書家よ、永遠なれ

あとがき

定価4,180円(税込)・本体3,800円

A5判並製カバー装
カラー口絵8ページ+本文248頁
ISBN 978-4-585-39005-3・C1090
2021年11月刊行

著者プロフィール

高宮利行(たかみや・としゆき)

1944年生まれ、慶應義塾大学経済学部及び文学部英文科卒業、同博士課程修了、ケンブリッジ大学英文学部博士課程修了。慶應義塾大学文学部助手、助教授、教授を経て名誉教授。2017年ケンブリッジ大学サンダース記念書誌学講座リーダー、シェフィールド大学・グラスゴー大学名誉文学博士、ロンドン好古家協会フェロー、日本中世英語英文学会会長、日本英文学会理事、初期書物学会理事、新チャールズ学会理事、国際アーサー王学会日本支部会長などを歴任。Poetica編集主幹。主な著書に『西洋書物学事始め』(青土社、1993)、『アーサー王伝説万華鏡』(中央公論社、1996)、『図説人と本の歴史事典』(原田範行と共著、柏書房、1997)、『グーテンベルクの謎』(岩波書店、1998)、『アーサー王物語の魅力』(秀文インターナショナル、1999)、『本の世界はへんな世界』(雄松堂書店、2012)などがある。その他英語著作、共編著、翻訳書多数。専門は中世英文学、アーサー王伝説、書物史、書誌学。

書名	部数
書物に魅せられた奇人たち 英国愛書家列伝 高宮利行 著	定価4,180円(税込)・本体3,800円 A5判並製カバー装 カラー口絵8ページ+本文248頁 ISBN 978-4-585-39005-3・C1090 2021年11月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	